平成30年度

大学院生による授業評価結果報告書
（後期分）

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
4	広領域科目	30040000	数学と芸術、そして科学間の接点を探る	佐伯　昭彦,胸組　虎胤,金児　正史,齋藤　大輔
5	広領域科目	30041100	伝統文化（音楽・美術）における表現の思想	栗原　慶,遠藤　綾子
6	広領域科目	30042100	子どもの規範意識の現状と課題	曽根　直人,金野　誠志
7	広領域科目	30047000	学校危機管理研究	阪根　健二
8	広領域科目	30049000	予防教育科学	内田　香奈子
9	人間形成	30114000	教育哲学演習	木内　陽一
10	人間形成	30117000	発達健康心理学演習	山崎　勝之
11	臨床心理士養成	30434000	臨床心理査定演習Ⅱ	川西　智也,今田　雄三
12	臨床心理士養成	30447000	学校精神保健学演習	今田　雄三
13	臨床心理士養成	30451000	臨床心理学統計法	古川　洋和
14	臨床心理士養成	30464000	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	古川　洋和
15	臨床心理士養成	30468000	心の健康教育に関する理論と実践	吉井　健治,今田　雄三,小倉　正義
16	幼年発達支援	30514000	幼年期福祉演習	木村　直子
17	幼年発達支援	30519000	幼年発達心理演習	田村　隆宏
18	幼年発達支援	30523000	幼年期教育学演習	湯地　宏樹
19	幼年発達支援	30525000	幼年発達と幼児教育内容論演習	塩路　晶子
20	現代教育課題総合	30631200	現代総合学習論	谷村　千絵
21	現代教育課題総合	30634000	現代教育人間論	太田　直也,谷村　千絵,田村　和之,近森　憲助
22	現代教育課題総合	30644200	人間とコミュニケーションⅠ（基礎研究）	谷村　千絵,金野　誠志
23	現代教育課題総合	30645200	人間とコミュニケーションⅡ（実践研究A）	金野　誠志
24	現代教育課題総合	30648200	人間と環境Ⅰ（基礎研究）	田村　和之
25	現代教育課題総合	30657100	現代教育課題特論	小西　正雄
26	特別支援教育専攻	31151000	特別支援教育コーディネーター実践論	井上　とも子
27	特別支援教育専攻	31152000	社会資源開発運用・連携論	井上　とも子
28	特別支援教育専攻	31162000	特別支援教育課程特論演習	高橋　眞琴
29	特別支援教育専攻	31163000	特別支援教育指導特論演習	大谷　博俊
30	特別支援教育専攻	31165000	特別支援教育臨床支援技法演習	高原　光恵
31	特別支援教育専攻	31169000	発達障害児支援医学演習	伊藤　弘道
32	特別支援教育専攻	31170000	発達障害児神経学演習	田中　淳一

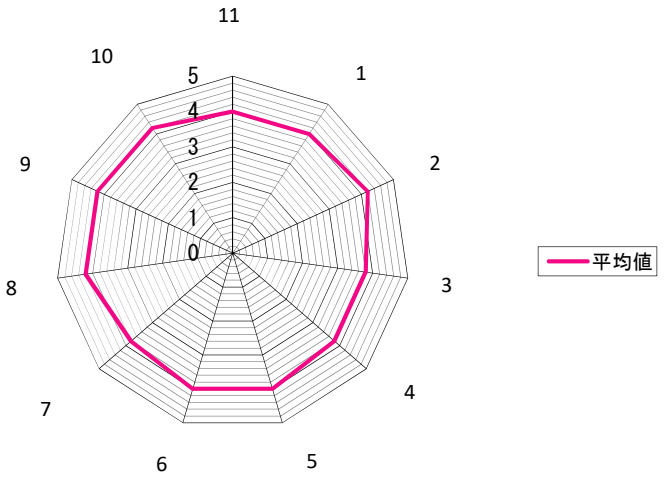
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
33	言語系	32139000	日本事情・日本文化	廣田　知子
34	言語系	32142000	日本語Ⅲ	田中　大輝
35	言語系	32143000	日本語Ⅳ	廣田　知子
36	言語系	32145000	日本古典語演習	原　卓志
37	言語系	32149000	日本文学演習Ⅰ	黒田　俊太郎
38	言語系	32151000	日本文学演習Ⅱ	小島　明子
39	言語系	32157000	日本語教育学演習	廣田　知子
40	言語系	32160000	日本語文法演習	田中　大輝
41	言語系	32162000	日本語語彙論	田中　大輝
42	言語系	32174000	国語科教育学演習	村井　万里子
43	言語系	32176000	国語科授業演習	幾田　伸司
44	言語系	32180000	国語科教材開発演習	余郷　裕次
45	言語系	32184000	日本語教育法演習	廣田　知子
46	言語系	32217000	英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）	宮崎　隆義
47	言語系	32219000	英米文学応用演習Ⅰ	前田　一平
48	言語系	32232000	小学校英語内容構成論	畑江　美佳
49	言語系	32285000	初等中等英語科教育演習Ⅰ	佐藤　美智子
50	言語系	32286000	初等中等英語科教育演習Ⅱ	山森　直人
51	社会系	33158400	歴史学演習Ⅱ	町田　哲
52	社会系	33159400	法学・政治学演習	麻生　多聞
53	社会系	33179000	社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）	梅津　正美
54	社会系	33180000	社会科教材開発演習Ⅲ（公民領域）	井上　奈穂
55	自然系	34126000	代数学演習	平野　康之
56	自然系	34127000	幾何学研究	松岡　隆
57	自然系	34128000	幾何学演習	松岡　隆
58	自然系	34129000	解析学研究	成川　公昭
59	自然系	34130000	解析学演習	成川　公昭
60	自然系	34173000	数学科教育学演習	秋田　美代
61	自然系	34174000	数学科授業研究	早田　透

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
62	自然系	34176000	数学科教材開発演習	佐伯　昭彦
63	自然系	34214100	物理学特論Ⅲ	粟田　高明
64	自然系	34218000	物理化学特論	武田　清
65	自然系	34232000	地学実験法特論	村田　守
66	自然系	34273000	理科教材開発研究Ⅰ（物質とエネルギー）	寺島　幸生
67	自然系	34293000	教科内容構成（理科）	粟田　高明,胸組　虎胤,佐藤　勝幸,村田　守
68	芸術系	35114000	歌唱表現演習	頃安　利秀
69	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡　貴史
70	芸術系	35133000	音楽文化比較研究	山田　啓明
71	芸術系	35193000	教科内容構成（音楽科）	頃安　利秀,鉄口　真理子,森　正,山田　啓明,山根　秀憲
72	芸術系	35212000	油画制作演習	鈴木　久人
73	芸術系	35214000	版画制作演習	鈴木　良治
74	芸術系	35215000	彫刻制作研究	野崎　窮
75	芸術系	35218000	デザイン制作研究	内藤　隆
76	芸術系	35220000	映像デザイン演習	内藤　隆
77	芸術系	35221000	工芸制作研究	栗原　慶
78	芸術系	35224000	総合造形研究	髙橋　耕平
79	芸術系	35228000	芸術学演習	小川　勝
80	生活・健康系	36125000	スポーツ・トレーニング研究	南　隆尚
81	生活・健康系	36129000	学校保健学研究	吉本　佐雅子
82	生活・健康系	36193000	教科内容構成（保健体育科）	綿引　勝美,乾　信之,木原　資裕,田中　弘之,藤田　雅文,松井　敦典,南　隆尚,湯口　雅史
83	生活・健康系	36212100	情報技術演習	菊地　章
84	生活・健康系	36228000	ディジタル制御研究	菊地　章
85	生活・健康系	36229000	情報応用演習	曽根　直人
86	生活・健康系	36236000	光工学研究	宮下　晃一
87	生活・健康系	36316000	衣生活学演習	福井　典代
88	生活・健康系	36372000	家庭科教育学演習	速水　多佳子
89	国際教育	37135000	国際教育協力特論Ⅱ	小澤　大成,近森　憲助
90	国際教育	37182000	国際理解教育特論Ⅱ	小澤　大成,近森　憲助

結果報告書

授業科目名　数学と芸術、そして科学間の接点を探る
評価実施日　平成31年1月22日
担当教員名　佐伯　昭彦,胸組　虎胤,金児　正史,齋藤　大輔　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2		1			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2	1				4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3		1			3.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1	3		1			3.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2		1			4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1	3	1				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	3		1			3.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2	1				4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2	1				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1				4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2		1			4.0



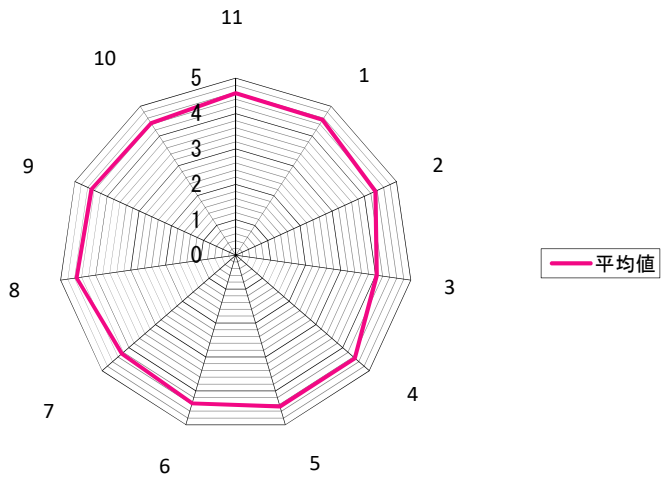
教員のコメント

アンケート回答者5名に対して，総合評価は4.0であった．本授業は，芸術を通して数学や科学を眺めたり，数学や科学を通して芸術を眺めたりすることを通して，数学，芸術，そして科学間の接点を探り，教科領域を超えた幅広い知識を基にした教材開発と思考方法を高め，他者により良く伝えるサイエンス・コミュニケーターとしての力量を高めることを目的とした．授業の大半が学生の主体的活動を取り入れたアクティブ・ラーニングであったため，質問項目(10)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」が高い評価「4.2」を得ることができた．学生達が徳島県立近代美術館で説明した内容は，来場者のアンケートから推測すると非常に高かったことが明らかであった．これは，担当した教員がそれぞれ独自の授業用資料を作成したのみならず，支援して頂いた徳島県立近代美術館からも貴重な資料を豊富に提供して頂いたからである．以上のことから，本授業は学生達の教材開発や指導法の質向上に繋がった内容であり，本授業の目標は達成できたと考える．

結果報告書

授業科目名　伝統文化（音楽・美術）における表現の思想
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　栗原　慶,遠藤　綾子　　回答者数　35　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	24	8	2		1		4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	9	3		2		4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	9	9	1	1		4.0
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	21	9	5				4.5
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	18	15	2				4.5
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	21	8	4	2			4.4
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	19	9	4	3			4.3
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	22	10	3				4.5
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	22	9	3	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	9	2	2		2	4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	23	7	2	1		2	4.6



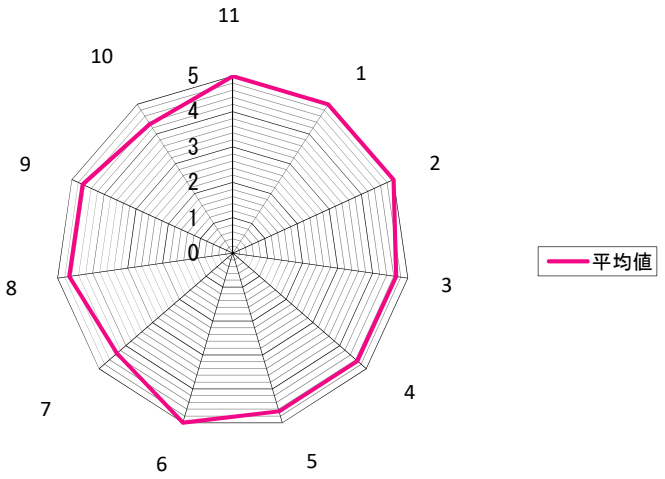
教員のコメント

総合評価が4.6でグラフの円のバランスも取れているので，授業として一定の満足度と成果はあったようだ。ただし今回は各項目で3点の評価が多い結果となってしまったのが残念である。特に(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった」の項目は，3点の評価が9人であり，2点，1点の評価も一人づつであった。授業内容は，史実の講義と，各時代に行われていた技法の体験を通して思考を探ることなので，内容が専門的で教師の実践力にそぐわないと感じる面はあったかもしれない。だが，シラバスに内容の記載をしており，音楽・美術とも，教科間連携科目の狙いである「教科横断的な視野を育成する」という面は意識するよう指導をしていることは申し添える。低い評価のアンケートに限って具体的な記述がないので改善点は推察するしかないが，美術については授業展開のペースを落とすなどして，考察時間を確保できないか検討したい。(5)の「成績評価の方法の説明は，適切であった」では，音楽・美術ともプリントを配布し何度も説明したのだが，4点，3点の評価が多かった。これについては，分野ごとの評価を合計するので解りにくいのかもしれない。何れにしても，今後の改善につなげていくようにしたいが，積極的に取り組む姿勢が最初から欠けている学生が少なからず存在していることも指摘しておく。音楽・美術それぞれでレポートの提出を求めているが，提出先，期限についてさえ理解してない学生がいたことが気がかりである。

結果報告書

授業科目名　子どもの規範意識の現状と課題
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　曽根　直人,金野　誠志　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



教員のコメント

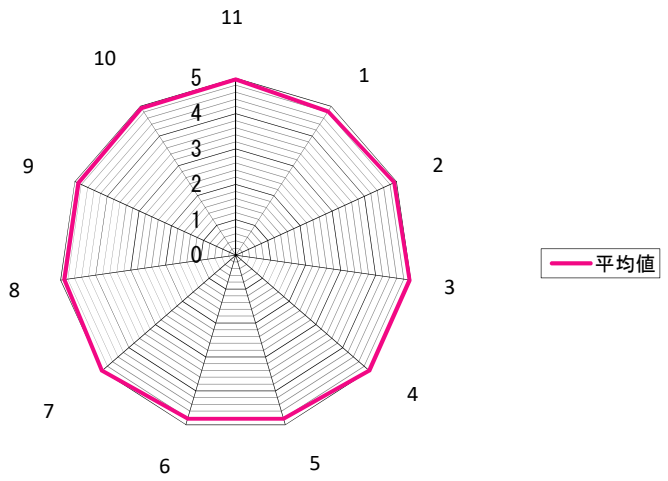
最後の講義担当者の不手際でアンケート回収数が3と少なくなってしまい、十分な分析が行なうことができないが、得られた回答は評価が高いものが多く、授業は評価されていたと考える。

評価のコメントを抜粋する
・今の道徳の状況がどうなっているのか気になっていたのでありがたかった
・質問したことは積極的に質問した
・おもしろい授業だった
・話し合いに参加した
などが記入されており、アクティブラーニングの成果も表れていると思われる。

結果報告書

授業科目名　学校危機管理研究
評価実施日　平成30年12月23日
担当教員名　阪根　健二　　回答者数　28　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	23	5					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	2					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	27	1					5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	28						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	24	3	1				4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	25	2		1			4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	28						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	26	1	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	25	3					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	26	2					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	1					5.0



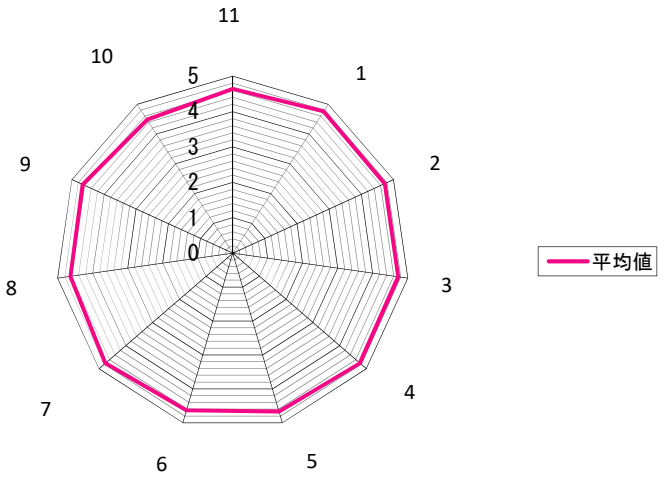
教員のコメント

極めて高い授業評価であり、到達目標は十分達成できたものと思われる。この授業は、本学の専任教員と非常勤の専門教員とのコラボレーションで実施するという特徴を有しており、現在の学校における様々な危機について学ぶ集中講義である。そういった面で、授業評価の自由筆記においては、「専門的知識と実践的知識の両方が備わったこと、最新のデータに戻づく情報提供があり、授業形態もアクティブラーニングが徹底されていたことで、年末の時期だったが、受講してよかった」、あるいは「授業の内容が今日的で有意義なものであり、あっという間の集中講義であった」というように、授業内容・授業構成も含め、当初の目標が十分果たせたものと思われる。ただ、扱う内容は多かったこともあり、進度が早くなり、ついていきかねた院生もいたと思われる。なお、この授業は旧カリキュラムのため、2019年度で終了するが、ここで培った手法を、新カリキュラムの他の授業にも生かしていきたい。

結果報告書

授業科目名　予防教育科学
評価実施日　平成31年2月6日
担当教員名　内田　香奈子　　回答者数　33　人

質　問　項　目		評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N.A	(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	26	6	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	7	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	25	7	1				4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	27	4	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	9	1				4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	23	8	2				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	26	6	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	22	10	1				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	25	5	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	13	2				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	23	8	2				4.6



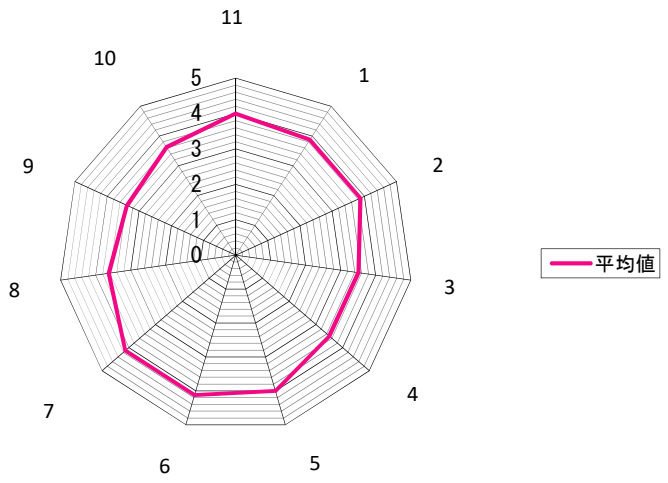
教員のコメント

総合評価は今回4.6と概ね高い数値を得ることが出来た。各項目についても4.5以上の数値を得られたことから、ある一定の評価を得られたものと考える。ただし、(6)授業の進む速さは、適切であった、(8)教科書や配布された資料は、適切であった、の2項目が他と比較すると低い点数となった。(6)は、複数のコースや専攻の学生が受講する中で、心理学の専門的な知識を織り交ぜる形の授業であったため、専門外の学生にとっては授業の進行が速いと感じられたのではないかと予測する。また、(8)については、授業で呈示しているスライドを6分割で印刷しているが、人によっては字が小さいなどの意見もあったため、その結果が反映されたのではと予測する。今後もより模索しながら進めたい。

結果報告書

授業科目名　教育哲学演習
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　木内　陽一　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		7	1				3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	5	2				3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	3	1			3.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1	2	5				3.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	4	2				4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	3	2				4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	2				4.1
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1	5				3.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2	4	1			3.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3	4				3.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	6	1				4.0



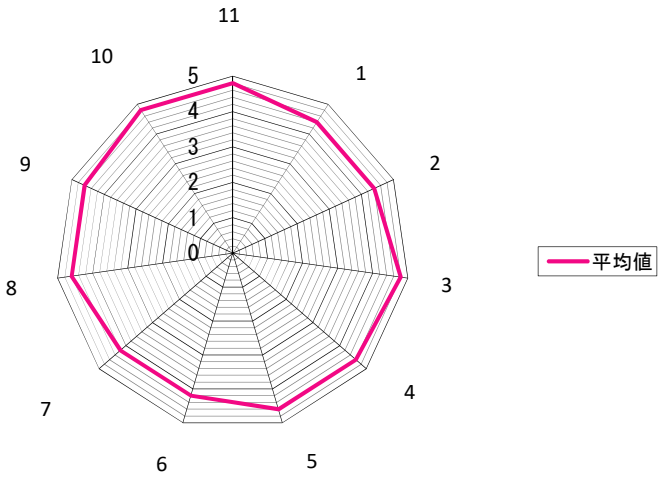
教員のコメント

教育哲学は、教育という事実を分析する過程に重きを置いている。換言すれば、結果に至る思考の過程にこそ、この学問の面白さ、特質があると言えよう。このような視点から考えると、受講生は例年になく多様な視点から、思考を展開し、傾聴に値する考えを述べていた。その意味では、この授業で最も得る物が多かったのは、授業者自身であったかもしれない。

結果報告書

授業科目名　発達健康心理学演習
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　山崎　勝之　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1	1				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	2					4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2					4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3		2				4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	1				4.2
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2					4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



教員のコメント

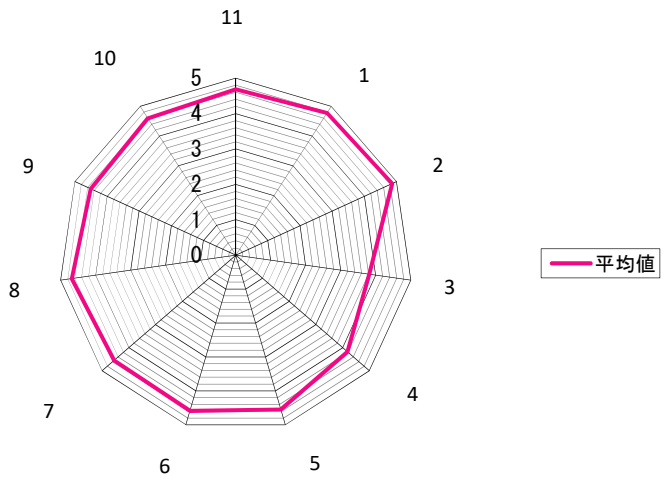
今年度の演習はわずか5名の参加者であったので、例年と異なり、運営が難しかった。その中には、中国からの留学生が3名含まれていて、日本語の観点から難易度の設定も難しかった。つまり、受講生の半数以上が留学生となり、この点では演習としては始めての経験となった。

しかし、総合評価では5点満点が4名、4点が1名ということであったから、授業の運営と内容はおおむね良好であったと考えられる。それも、学生の参加度と真摯な学びの姿勢によるもので、留学生は言語の壁をものともせず発表や討議等に積極的に参加し、また日本の学生も、留学生との協働を見事にやり遂げ、みずからも独創力と発表力を高めるという立派な受講姿勢であった。

結果報告書

授業科目名　臨床心理査定演習Ⅱ
評価実施日　平成31年1月30日
担当教員名　川西　智也,今田　雄三　　回答者数　22　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	17	5					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	19	3					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	3	4	1	3		3.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	11	5	5	1			4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	14	6	2				4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	15	6		1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	15	4	3				4.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	15	7					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13	7	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	6		1			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	17	4		1			4.7



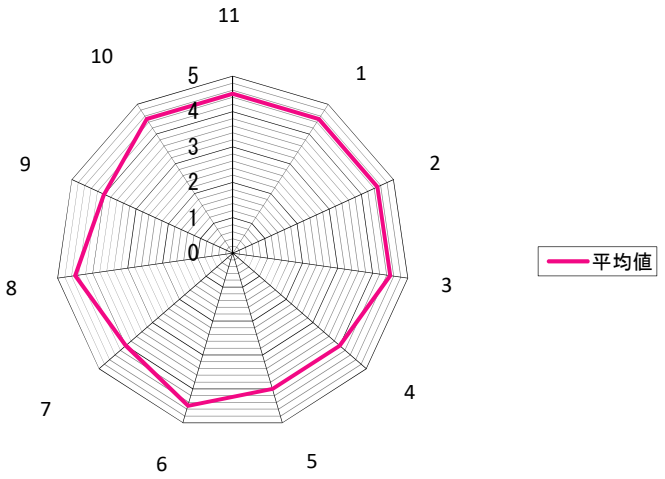
教員のコメント

＜総合評価＞総合評価に関する項目(11)の平均点は4.7、受講生の8割近くが5と評定しており、一定の評価は得られたと考えられる。
＜授業の内容について＞項目(3)教師の実践力育成に関する項目のみ平均3点台と、他の項目に比べ低かった。本授業は、心理職に求められる投影法の実施と解釈のスキルの獲得を目的としている。つまり、教師ではなく心理職の実践力向上がねらいであるため、項目(3)の低評価につながったと考えられる。項目(4)アクティヴラーニングに関する項目も平均4点台前半と、他の項目に比べ低かった。ロールシャッハ法の初期学習では記号とその意味の学習が中心であり、受講生には単調に感じられる傾向がある。本授業では、小グループに分かれデータ解釈をする等、一部アクティヴラーニングを取り入れたものの、今後はそれらを一層取り入れていきたい。
＜教員の授業の進め方について＞この評価領域では全項目で平均4.5以上の評価を得た。本授業では、各回ミニッツペーパーを配布し、その中で挙げられた受講生の疑問に次回授業の冒頭で回答する工夫を行った。また、パワーポイントの使用、学習内容の定着をはかる小テストの実施等を行った。学習を深めるこれらの工夫を今後も継続していきたい。
＜あなた(受講生)の授業への取り組みについて＞評価項目(10)の平均は4.5を超えており、受講生は概ね主体的・積極的に授業に取り組んだと考えられる。
＜自由記述＞自由記述欄では、自身のデータの解釈が妥当かどうかを確認する機会が欲しかったとの意見があった。今後はこの点を踏まえた授業展開を考えたい。

結果報告書

授業科目名　学校精神保健学演習
評価実施日　平成31年2月8日
担当教員名　今田　雄三　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。		2					4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。		2					4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1	1					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		2					4.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1				1	4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



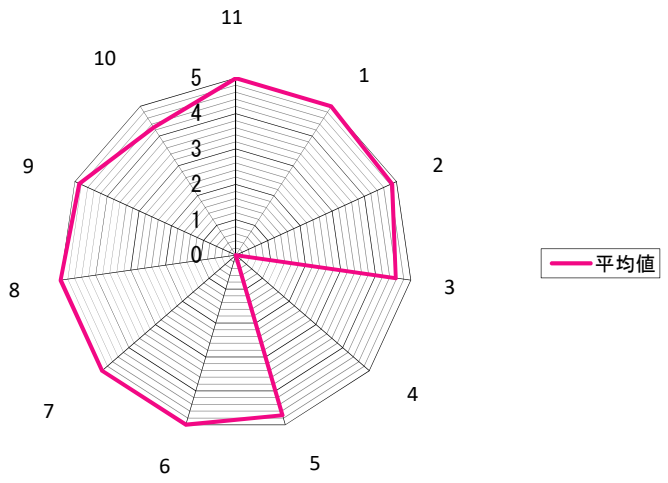
教員のコメント

質問項目の全てにおいて評価の平均値が4.0点以上であった。また(11)の「この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」を含むの7つの質問項目の評価の平均値が4.5点であり、受講生から非常に高い評価を得られたものと考える。なお本年度より，公認心理師資格に対応するためのカリキュラムが変更され、本科目を履修可能な学生が前年度までに入学した大学院生のみとなったため、履修者数が2名と前年度までと比べ大幅に減少したが、少人数であることの利点として、対話しながら、受講者の理解度に合わせた授業の進行、教材の選択、演習課題の難易度の調整などを柔軟に行うことなどにより、受講者の学習効果を高め、高い満足度が得られたことにつながったと思われる。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学統計法
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　古川　洋和　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3					4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。							
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	2				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



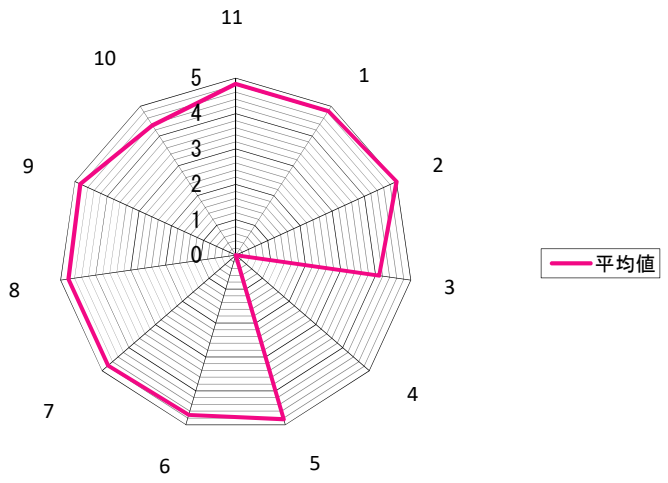
教員のコメント

回収率が低いものの総合評価において全員が「5」と評定しているため、講義内容および方法について変更する必要はないと考えられる。
また、「教師の実践力につながる内容であった」の項目については、本講義の目的に合致しないため授業評価のための質問項目としては妥当性に欠けると考えられる。

結果報告書

授業科目名　産業・労働分野に関する理論と支援の展開
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　古川　洋和　　回答者数　31　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	26	5					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	6	7		2		4.1
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。							
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	26	5					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	24	6		1			4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	25	5	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	26	3	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	26	3	1			1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	8	6				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	27	3	1				4.8



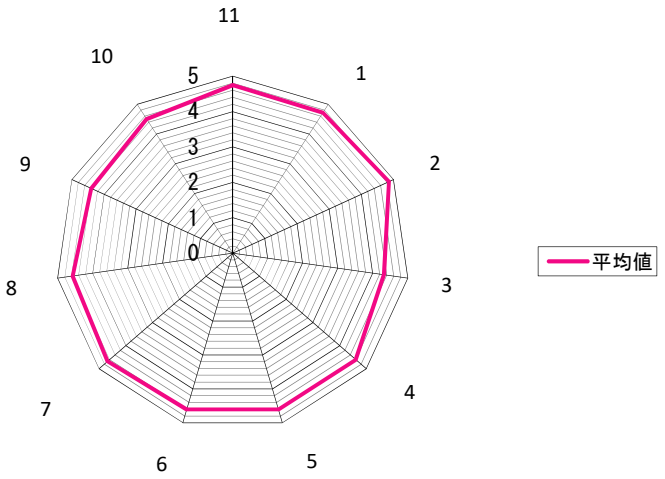
教員のコメント

本講義は平成30年度より開講されたものであるが、概ね高い評価を得たと考えられる。平成30年度は嘱託講師と専任教員の分担で開講したが、次年度は専任教員のみでの開講となるためまったく同様の内容で構成することが不可能である。

結果報告書

授業科目名　心の健康教育に関する理論と実践
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　吉井　健治,今田　雄三,小倉　正義　　回答者数　28　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	20	8					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	24	4					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	6	5	1			4.3
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	19	7	2				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	11					4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	20	6	1	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	20	7	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	18	8	2				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	16	8	3	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	7	2	1			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	21	7					4.8



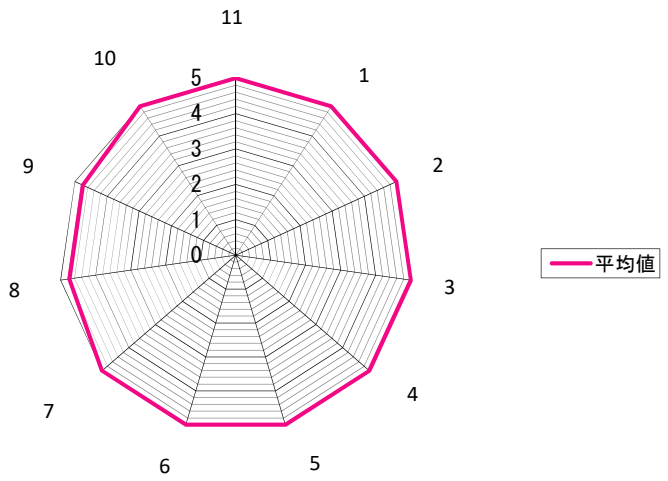
教員のコメント

平均値は4.3～4.9であり、全体的に高い評価だった。とくに高い評価だったのは、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」(平均値4.9)、「(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」(平均値4.8)であった。自由記述では、この授業でよかったと思われる点については、「公認心理師に必要な心の健康教育に関する専門的知識を主体的に学ぶことができた」という感想があった。また、授業に主体的・積極的に取り組んだ理由については、「グループワークがあり、調べたり、資料準備をしたり、発表したりなど、積極的に取り組むことができた」という感想があった。

結果報告書

授業科目名　幼年期福祉演習
評価実施日　平成31年1月31日
担当教員名　木村　直子　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



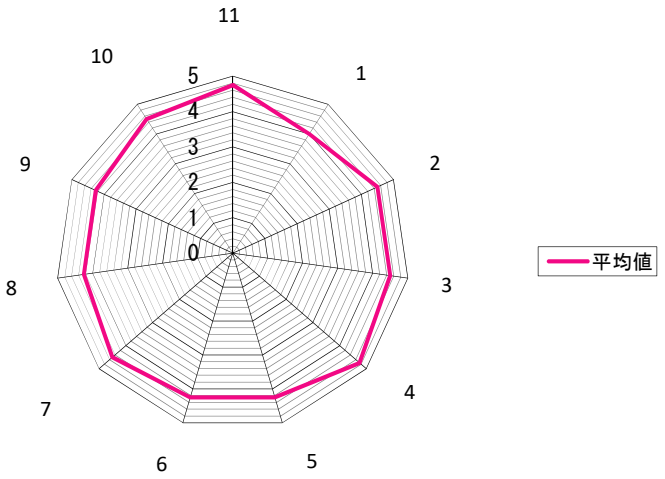
教員のコメント

本年度は、受講生も少なく、授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができる状況にあった。例年感じていた受講生の予習・復習・授業外学習の少なさという課題に関して、今年度も、院生の主体的積極的な取り組みにつながる可能性を広げていくことを目的に授業改善を試みた。以下受講生の授業評価アンケートの自由記述部分から、本授業を振り返る。まずは受講院生の取り組みについて、「よく考えて参加した」「自分で深く考え、発表した」「自分で考えながら授業に参加していた」「毎回課題を忘れずにした」「毎回課題について自分なりに考えることを通して、自分のあり方を見直すことができた」「一つ一つが考えることの多い課題でした」など、課題に積極的に取り組んだ院生の声が書かれている。本授業は、毎回の課題に院生らが取り組んでくることで成り立つ演習となっていた。一人一人の院生に我が事として課題を捉え、取り組んでもらえたことが、受講生全員の満足感につながったと考える。また、配布された資料や視聴覚資料の適切性については、「ホワイトボードだけの説明のものも、紙資料等にまとめてもらえるともっと良かった。」という意見を頂いた。事例検討のため、受講生の考えをメモのようにホワイトボードに書き、それを視覚化して共有することで、場の空気や連帯性を作っていたが、そういった意図が伝わっていなかったこともあるだろう。また、少しでも学びたいという院生のために、ホワイトボードの内容を次回の授業でフィードバックするなどの工夫もできたかもしれない。今後の演習授業の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　幼年発達心理演習
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　田村　隆宏　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1		1			4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1	1				4.3
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	1	1				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3		1				4.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1	1				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



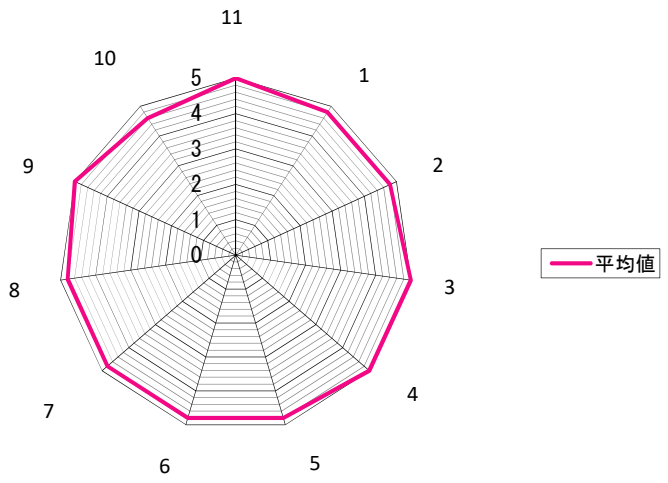
教員のコメント

各項目の評定値をみると，ほとんどの項目が4．0以上であり，概ね良好な評価を受けている結果となった。ただし，いくつかの項目において少数ではあるが，評定値として2や3にチェックした受講生もみられたことから，各項目の内容についてさらに改善を図ることも必要である。今後の授業では特に内容に関してはより教師の実践力に関わるものに焦点化させること，成績評価の説明をより具体的にわかりやすくすること，配付資料を分かりやすいものにすることが改善すべき点である。自由記述をみると，「ディスカッションで自分の意見が言え，他の人の様々な意見を聞きながら，さらに考えを深めることができたのがよかった。」といった討論形式を高く評価する意見が多かったことから，さらにこの形式を精練させる必要があると考えられる。

結果報告書

授業科目名　幼年期教育学演習
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　湯地　宏樹　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



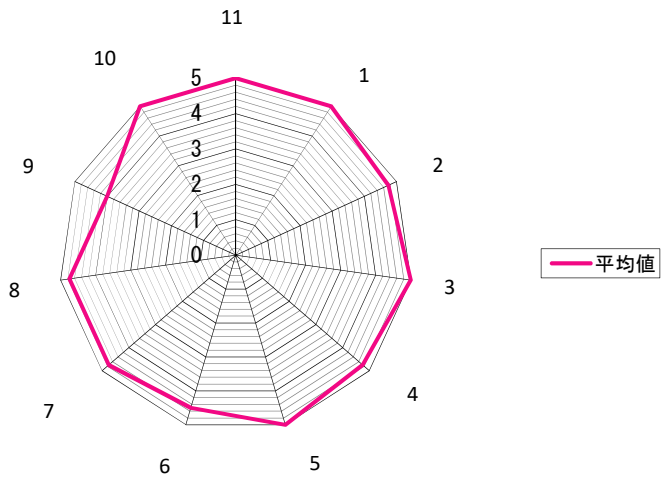
教員のコメント

本授業の受講者数は5人で，そのうち5人の授業評価の結果である。この授業は，2つの課題(①論文紹介，②模擬授業)を学生参画型で行うものである。
授業評価に関しては，「5」>「4」「3」を常に目標としている。今年度はすべての項目において達成できた(昨年度は2項目のみであった)。総合評価の平均値も5.0であった。
自由記述【2】(よかった点)では，「模擬授業の経験が役に立った(3)」「論文の読み方や研究方法などを学べた(3)」などが評価された。自由記述【4】(質問「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」の理由)には「自ら調べ，自ら学び，主体的に積極的に取り組むことができた(3)」「幼児教育について振り返ることができた」など共通した意見が多かった。自由記述【3】(改善点)は何もなかった。
以上，授業評価や自由記述の意見を参考に，他の授業でも何を教えるかというよりも何を学ぶかということを重視したアクティブ・ラーニングを推進していきたい。

結果報告書

授業科目名　幼年発達と幼児教育内容論演習
評価実施日　平成31年2月5日
担当教員名　塩路　晶子　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2	1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



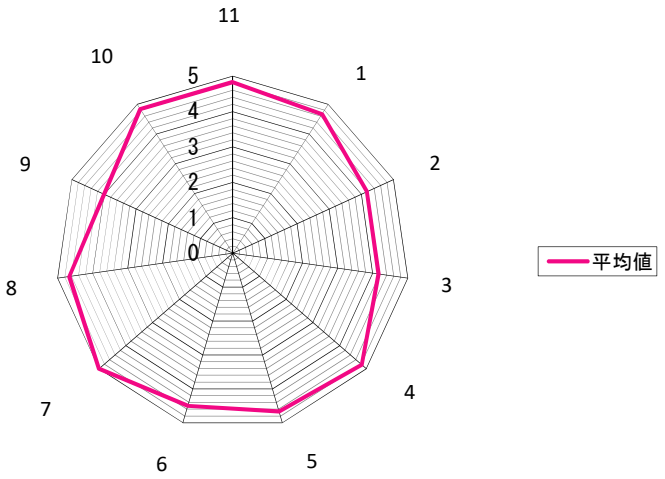
教員のコメント

本授業は、幼児教育内容についての質的研究及び文献研究の手法を学び、自らの問題意識を深めることを到達目標としている。授業評価アンケートにおける自由記述の中でも、受講生が文献研究の基礎を演習を通して学ぶことができたこと、意欲的に課題に取り組んだこと、他の受講生とのディスカッション通して自らの理解がより深まったことについての記載があり、到達目標はおおむね達成することができたと考えている。

結果報告書

授業科目名　現代総合学習論
評価実施日　平成31年2月8日
担当教員名　谷村　千絵　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2		1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2		1			4.2
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	3					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2			1		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



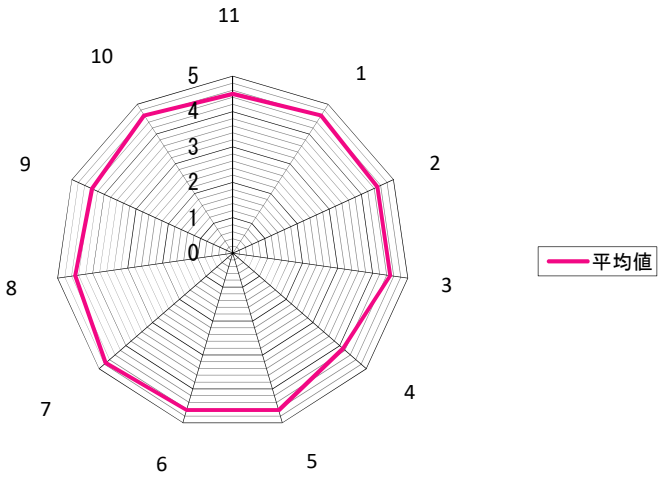
教員のコメント

概ねよい評価であるが、(2)、(3)、に2を、(9)に1をマークした受講生(いずれも同一学生)は、その理由をコメント欄に書いてはいない。以下の記述を見る限り、否定的評価といより本授業には関係のなかった事項としてとらえて評価したのではと思われる。当学生は、本授業の良かった点を「時の流れがゆっくりだった、一つ一つの事柄に対して熟慮できた。教員をふくめ、一人ひとりが各々の意見を丁寧にひろってくれた感じがした。コーヒーが美味しかった。」としており、改善点は「特にありません」と書いている。また、主体的、積極的に本授業にと入り組んだこと、自由記述欄には「教育がさまざまなジレンマやグレーゾーンを抱えていることが見えて来た。議論するなかで揺れたり、迷ったりすることは、とても貴重な学びなのかなと思った」とあった。他にも同様の意見が多かったが、「授業外でも友だちと話し合いを深めた」や、「人とは何か、教師のあり方というのを考える良い機会になった」、それぞれの価値観、考え方、教育観に触れることができ、教員を目指すものとして非常にためになる時間であった」、「受講者全員で考えを深めることができた」、「関連書籍を積極的に読んだ」等のコメントがあった。丁寧に意見を聞きあうこと、意見を述べることは、大きな学びをもたらすことが分かった。

結果報告書

授業科目名　現代教育人間論
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　太田　直也,谷村　千絵,田村　和之,近森　憲助　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	3					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1				4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	5	1	1		1		4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3					4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5	3					4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	2					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	1		1			4.5



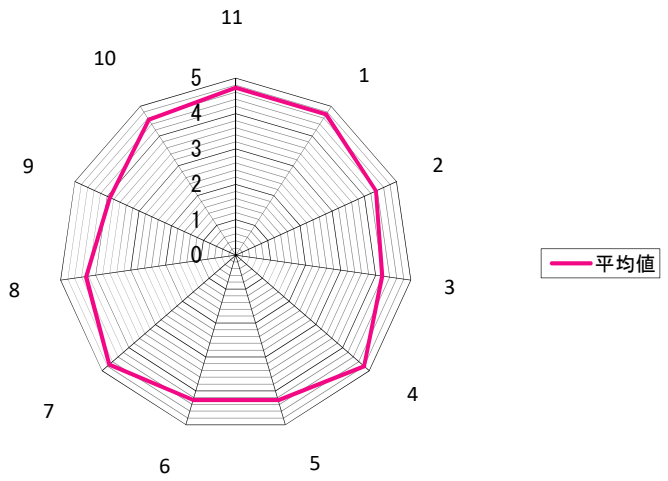
教員のコメント

本授業は、現代思想の諸相から人間が直面している問題や教育が抱える諸課題を再検討しようという試みである。担当教員からの一方的な講義になることを避けるため、毎回「ノートのノート」と称するメモを通じてのやりとりがあり、疑問や意見を全員でシェアできるようにしてある。例年、その点が受講生には高く評価されてきているが、本アンケートによれば昨年度は担当教員の意図を必ずしも理解してもらえていなかったのかもしれない。反省点として次年度に繋げたい。

結果報告書

授業科目名　人間とコミュニケーションⅠ（基礎研究）
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　谷村　千絵,金野　誠志　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3	2				4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	7	1				4.2
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	2				1	4.8
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	6	1				4.3
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	5	4	2				4.3
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	8	3					4.7
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	5	4	2				4.3
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	4	2		1		3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	3					4.7



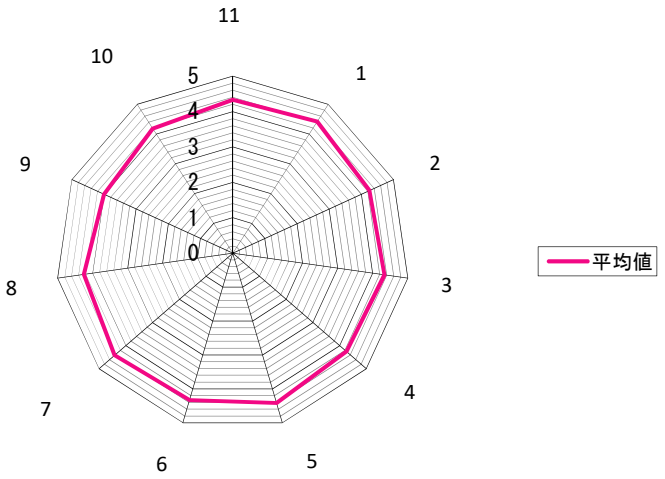
教員のコメント

概ね良い評価であるが、板書やICT機器の利用は少なかったので（9）に1をつけた学生もいたようだ。グループでテキスト講読を進めるので、読みを深めることが出来ていた。「一冊の本をじっくりと他者と意見を交流しあいながら読み進める体験ができたこと」を本授業のよかった点に挙げた学生が多かった。内容については、「子ども期という概念にメディアが絡んでいるのが新しい発見だった、技術革新と教育にこんなに深いつながりがあることに気がついた、子ども期を斬新な視点から見ることができた、ロック、ルソー、デューイ、フロイトの教育観の比較検討することで、理解が深まったという意見もあった。テキストについては選書が古いという意見も1名あったが、中世から近代にかけてのメディア改革とコミュニケーションの形態変化および教育思想の関係を簡潔に示す所としては他に類がないので、今度も使用したい。

結果報告書

授業科目名　人間とコミュニケーションⅡ（実践研究A）
評価実施日　平成31年2月5日
担当教員名　金野　誠志　　回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	3	2				4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	5	2				4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4	2				4.3
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6	3	3				4.3
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	5	1				4.4
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	5	6	1				4.3
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	6	5	1				4.4
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3	3				4.3
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	6	3				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	7	1			1	4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	6	1				4.3



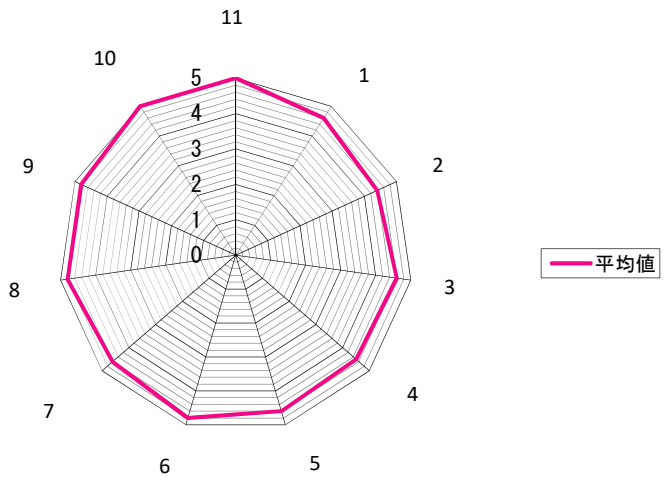
教員のコメント

受講者のレディネスが大きく異なる中で、一定の評価がなされたと考える。アクティブラーニングについては、院生自身の理解や積極性に負うところもあり、受け身で参加することに安心できる院生の評価は少数だがそう高くないと考える。多様なコースからの受講であると言うことも、講義内容に対する関心の差を生んでいると考えるが、コースの特長を生かした授業を今後とも進めていきたい。

結果報告書

授業科目名　人間と環境Ⅰ（基礎研究）
評価実施日　平成31年2月8日
担当教員名　田村　和之　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	2					4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3					4.4
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2					4.6
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	2				1	4.5
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2					4.6
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	4	1					4.8
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	3	2					4.6
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



教員のコメント

人間と環境Ⅰの授業では様々なものを教科横断的な授業の教材としてどのように使うかを学生に発表してもらい、その後全員でディスカッションをする、という形を取っている。

思いもよらない題材・物品・伝統・習慣が様々な授業で教材として活用できることに学生は非常に興味を持ち、ディスカッションにも積極的に参加している。

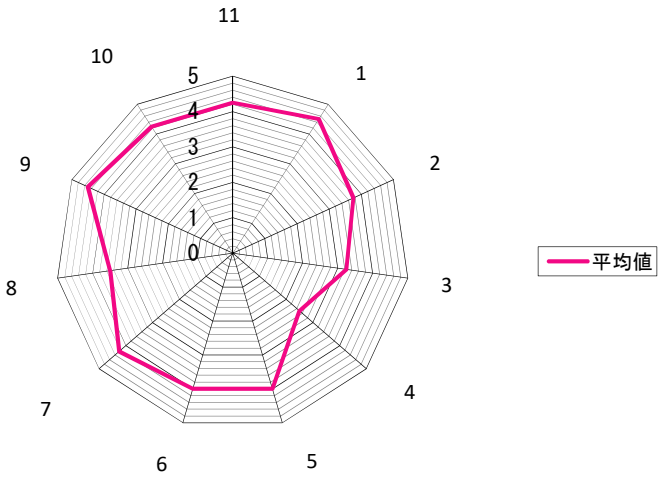
学生にとっては授業内容は思考を広げる刺激になり、パワーポイントを作って実際に発表するという経験を積むことができたようである。

評価も概ね良好となっており、今後も同様の授業を継続していきたい。

結果報告書

授業科目名　現代教育課題特論
評価実施日　平成30年12月25日
担当教員名　小西　正雄　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2		1			3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1		1		3.3
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。		1	1	1	1		2.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2		2				4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1	2	1				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1				4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。		2	2				3.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3		1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1	1				4.3



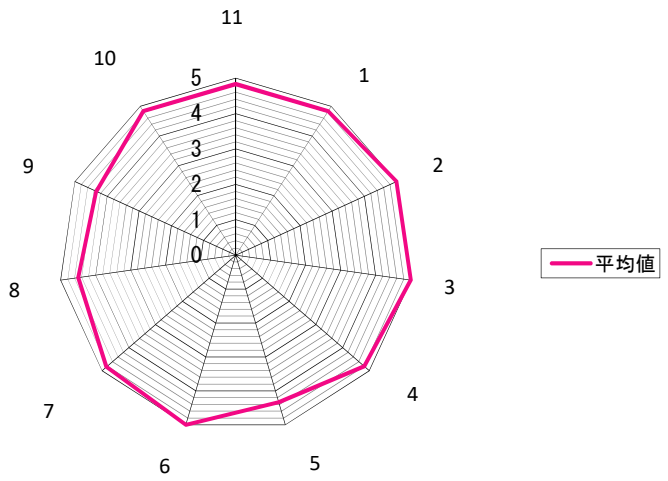
教員のコメント

受講生が4人と極端に少ない集中講義だったので、授業評価アンケートのデータに意味を求めることは困難であるが、総合評価で半数が「5」の評価を出してくれているので、それなりに有意義な授業であったと思われる。結果を精査し、次年度の授業づくりに活かしたい。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育コーディネーター実践論
評価実施日　平成31年2月14日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4	1				1	4.8
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2	1				4.3
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1	1				4.5
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



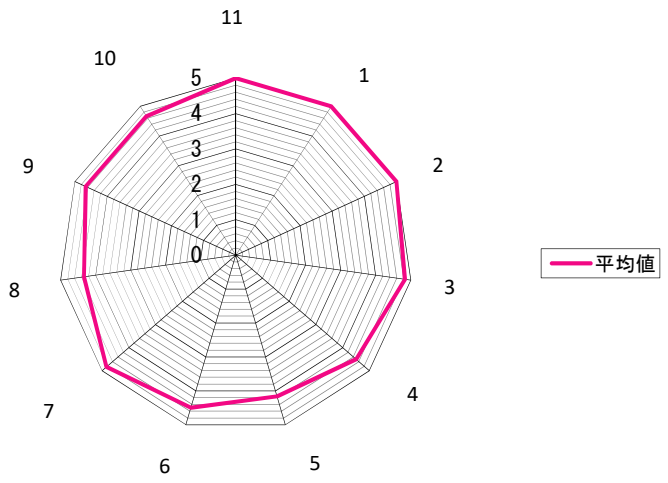
教員のコメント

本授業は、「実践論」と言いながらも、実際に発達障害幼児に対して、就学に向けた行動調整等の指導を行う教育実践的授業であり、授業の前後のグループ討議、指導終了後のカンファレンス等々、全編にわたってアクティブ・ラーニングち言える。受講生の意見欄にも、実際の指導方法や対応方法が分かったとあるように、実践力が向上した実感のある授業である。もう一つ、特別支援教育コーディネーター養成分野として重要である「保護者対応」の仕方を学べる授業である。今期、6名の受講生が幼児の指導と保護者対応観察に分かれることができ、両方の学びができたことが特に学びの深さに繋がったと考えられる。この授業は、通級による指導が実践的に学べる授業であり、他にない学びができると言うことで、これまでも「貴重な体験ができた」と感想にあったように、この年度も、教育現場ではとうていできない指導に関することのみに時間を費やすことのできる経験がよかったとあり、教育に真剣に向き合えたものと推察する。

結果報告書

授業科目名　社会資源開発運用・連携論
評価実施日　平成31年1月31日
担当教員名　井上　とも子　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3	1				4.2
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4	1	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4		2				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



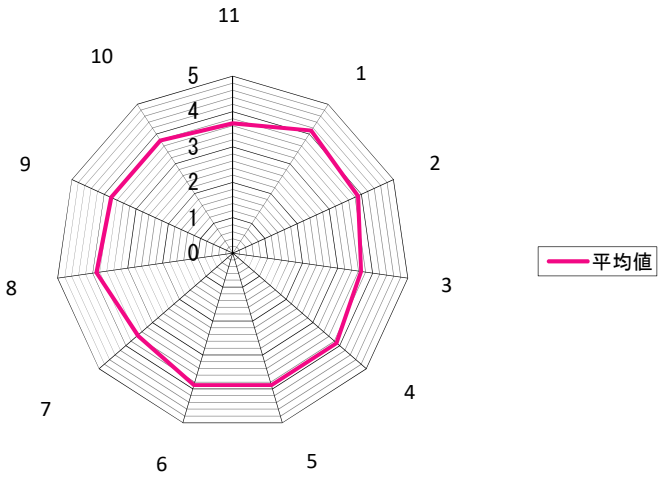
教員のコメント

受講生全員が積極的に課題に向き合い、発表する形で進める事ができたと思われる。さまざまな学校外の資源について、また関係機関との連携の仕方等々、調べる中で、他都市との教育事情の違いやシステムの違いがあることなどが分かったようで、視野が広がったようである。コーディネーターの役割は、特別支援教育の専門性の発揮以上に、子どもを取り巻く人々をつなげ、子どもの苦しみの解決を手助けする立場である。この役割を十分に理解した上で、学校現場に戻った際に子どもと保護者、学級担任ののサポーターとして、活躍してほしいと願っている。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育課程特論演習
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　高橋　眞琴　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	6	1				4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	4	3				3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	5				3.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	4	3				3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	4	3				3.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	4	3				3.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	4	1			3.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	4	3				3.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3	4				3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	4				3.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2	5				3.7



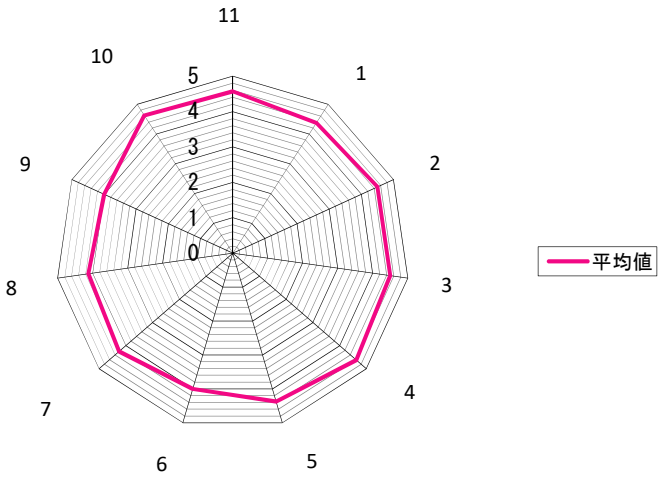
教員のコメント

平成29年度の同授業における総合評価は、4.9であり、大半の大学院生が公立学校へ就職したため、前年度の内容構成を踏まえて授業を行ったが、平成30年度は、アンケート紙を参照すると個人によって学生の評価が分かれることになった。進路等へのそれぞれの考え方などが背景にあるのではないかと考察する。今後も、それぞれの大学院生のニーズを踏まえて授業について、検討していきたいと思う。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育指導特論演習
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　大谷　博俊　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1				4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6	1	1				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3	1				4.4
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	3	1	1			4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	4	1				4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3	2				4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2	3				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	1				4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1	1			1	4.6



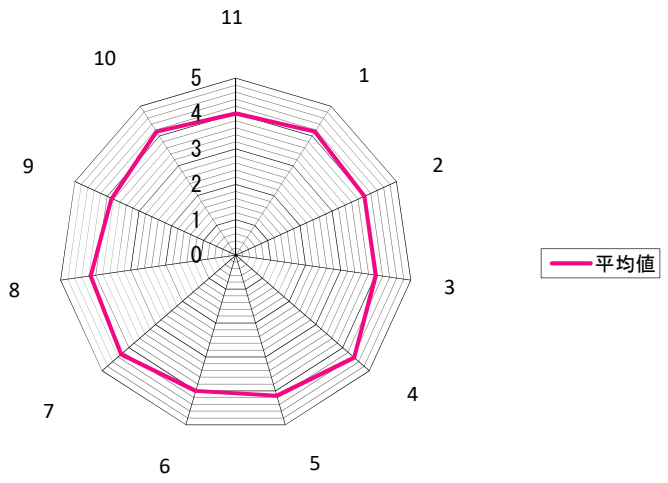
教員のコメント

受講者の総合評価は4.6と高く、講義に満足していたことが分かる。一方、授業の進度については、受講者によっては適さなかったことが推察される。専門科目であることから、基礎となる知識や思考が身についていることを前提としていたが、関連資料等を紹介し、自学を促すなどの対応が必要であったかもしれない。

結果報告書

授業科目名　特別支援教育臨床支援技法演習
評価実施日　平成31年2月1日
担当教員名　高原　光恵　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	4	1				4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3	2				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	2				4.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4	2	1				4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2	2				4.1
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1	5	1				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	1				4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2	2				4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2	3				3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	2				4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	3	2				4.0



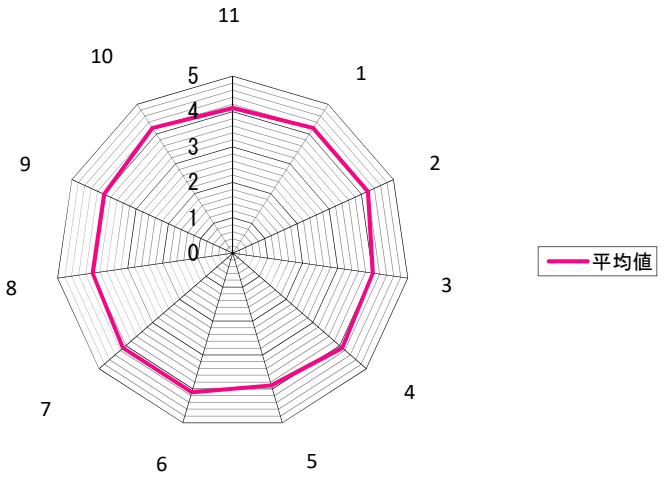
教員のコメント

この授業は、演習形式で、全員が課題論文について予習済みの前提で進められた。毎回の課題に関する意見交換では内容理解・表出する力が求められ、自身が用意した得意な課題、他者が用意した新規な課題などそれぞれに難易度や関心の度合いが異なっていたと思われる。しかし、評価が概ね4前後にまとまっており、受講生自身の取り組みへの評価も同様であることから、全体的には簡単すぎず、進度が遅すぎることもなく、適度であったと思われる。

結果報告書

授業科目名　発達障害児支援医学演習
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　伊藤　弘道　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	4	2				4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4	2				4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4	3				4.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	5	1	4				4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	4	2	1			3.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4	3	3				4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	3	3				4.1
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2	4				4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2	4				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4	2				4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	3	3				4.1



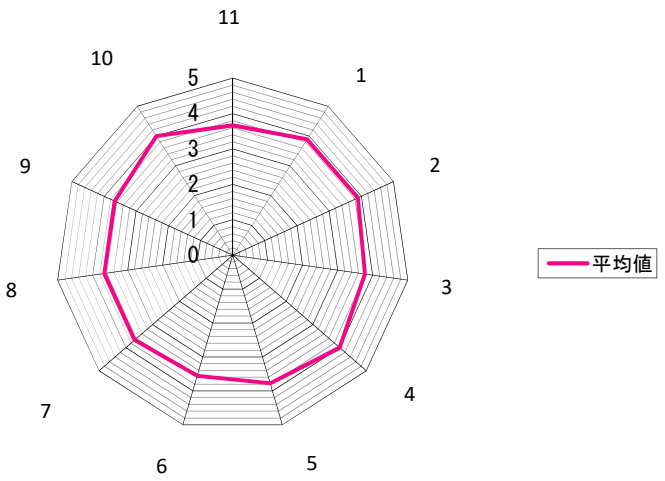
教員のコメント

この授業の目的は発達障害、病弱対象疾患の病態生理、神経生理などについて、医学・神経学の現状、特別支援教育との関係、発達生理、治療法などに関するテーマを毎回決め、少人数のグループにて文献研究を行い、この分野の研究について理解を深め、あわせて、プレゼンテーション、討論などを実践することである。各学生が授業で発表し討論することにより、発達障害および病弱児の理解をより深めることができたのではないかと考える。今後とも授業の内容、方法について改善を行っていく予定である。

結果報告書

授業科目名　発達障害児神経学演習
評価実施日　平成31年2月1日
担当教員名　田中　淳一　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	4	3				3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	4	3				3.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	4				3.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	5	2				4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3	4				3.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	1	6				3.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	5				3.7
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2	5				3.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2	5				3.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5	2				4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2	5				3.7



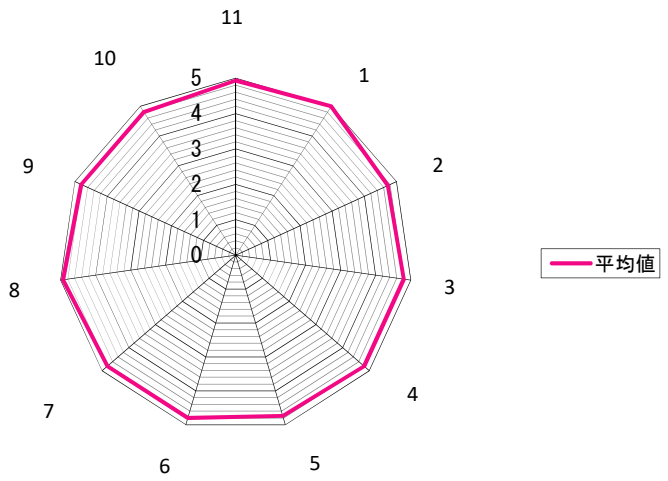
教員のコメント

平均点を上回る評価であったが、全体的に改善が必要である結果であった。中でも授業の進め方に対する項目の点数が低いことから、これらの項目1つ1つについて考慮しなければいけないと感じた．本科目は、演習であるため、院生による課題についての発表と発表者以外の院生および教員との質疑応答の形で実施した。発表以外の院生からの質問が少なかったように思えた。授業を活性化させより良くするために、教員の立場からの指導や課題に関する説明が重要であると思われた。また、課題の内容の選択も、専門的な知識と実用的な事柄を組み合わせるなどの工夫し、授業の充実をはかるこが大切であるように思われる結果であった。今後の授業に大きな課題を残していることが示された。

結果報告書

授業科目名　日本事情・日本文化
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　廣田　知子　　回答者数　15　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	15						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	4					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	3					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	13	1	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	12	3					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	12	3					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13	1	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	1	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	14	1					4.9



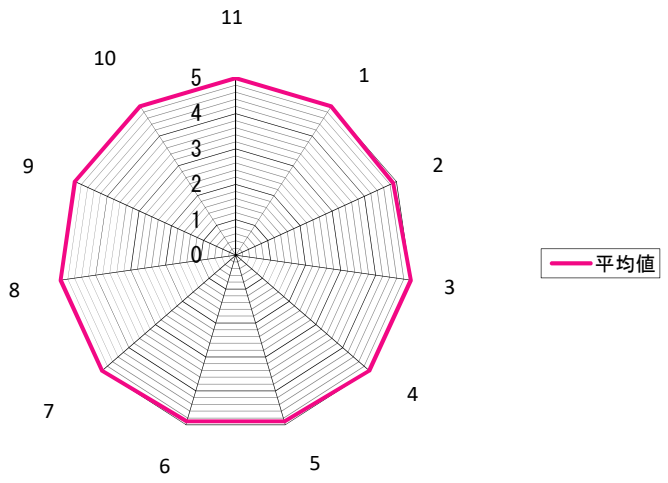
教員のコメント

主に日本語のみで授業を行ったので，非漢字圏の受講生にとっては，もう少し補助的に通訳あるいはheadlineのみでもEnglishで行ってほしかったというコメントが多かった。今後の受講生の割合にもよるが，日本語能力が初級レベルの留学生に対しての言語的な補助については，もっと考慮しなければならないと思う。内容に関しては，広く浅くなってしまった感があるので，もう少し生活レベルのことに絞って，深くやるという方法もあるかと思う。もっと生活にかかわるものとか，公共施設の利用方法などがアンケートのコメントに挙がっていたので，今後考慮してみたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅲ
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	10						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	9	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	10						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10						5.0



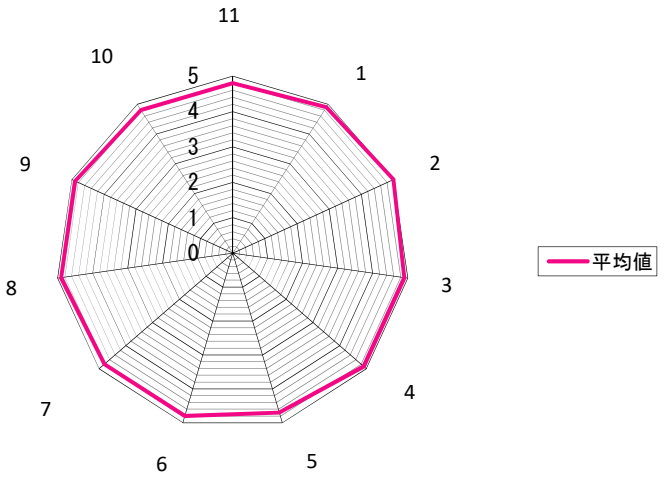
教員のコメント

本授業では，大学で学ぶ留学生にとっての基礎的な能力である，「適切にメールを書くことができる力，適切に情報を収集することができる力」などを養うことを目的とした。受講者数は0名（＋聴講12名）であり，授業評価アンケートの自由記述の項目では，「今後の生活や仕事に大変役立つと思います。」，「学生のいろんな能力を育てるために，たくさんの工夫を感じていました。」，「復習と感想フィードバックがあるのが，素晴らしいと思います。」など，授業内容の実用性や授業者の真面目さを高く評価する声が多く見られた。一方で，「勉強した3つの課題はいいと思いますが，もし2つだけだったら，内容がもっとくわしく勉強できると思います。」，「内容が面白いですが，ちょっと簡単だと思います。」，「日本語Ⅲの授業として，もう少し深い内容。例えば，論文に書くときのことばの使い方や，いかに質の高い論文を選ぶかなど。」など，授業内容の深度や授業内容そのものに改善（再考）を求める声も出ていた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた（N1レベル～N3レベル）ため，全員のニーズに応えることは難しかったのであるが，できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう，今後も最善を尽くしたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅳ
評価実施日　平成31年2月14日
担当教員名　廣田　知子　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	1	1				4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	8	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	2					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	2					4.8



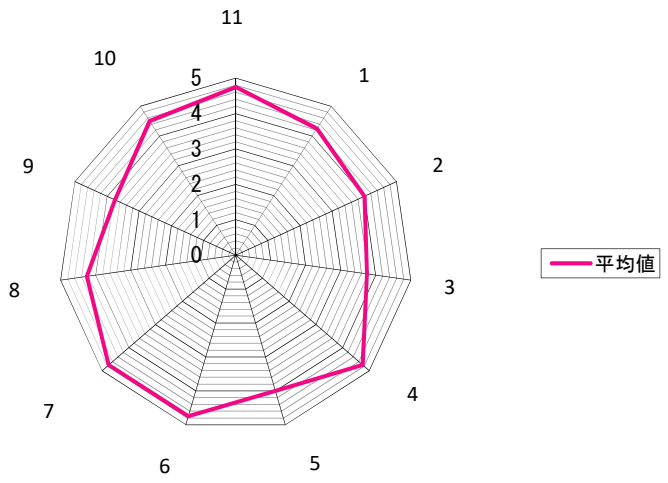
教員のコメント

聴解と縮約という二つの課題に取り組んだ。受講生は真面目に取り組みいい雰囲気で勉強できたと思う。今後，留学生の増加が予想される中，上級の日本語クラスとして大学生活にはどういった日本語力が必要とされるのか，ニーズ調査を適切に行いながら，内容を吟味していきたい。成績評価の方法が適切でないと感じている人が多いので，授業の最初にきちんと説明を徹底したい。

結果報告書

授業科目名　日本古典語演習
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　原　卓志　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	3					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2	1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	2				3.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2	1				4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	3					4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2		1	1			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



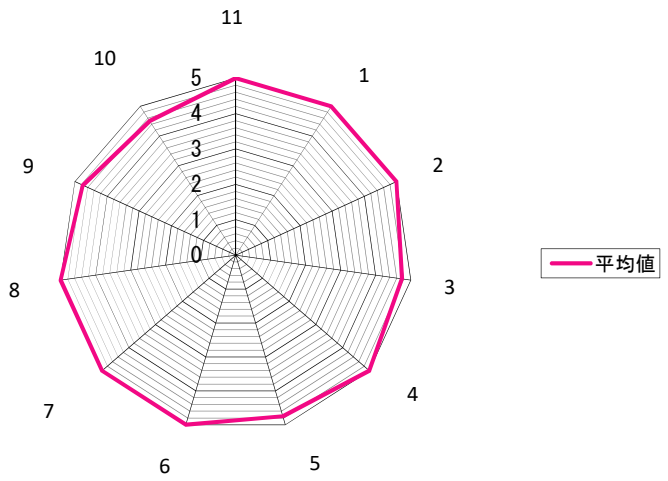
教員のコメント

前期に引き続き、国伝山地藏寺所蔵の『異船一條并大小名等諸事傳聞噂而已之記』を取り上げて解読を進めた。
6名という少ない人数であったが、対象文献を読むことに強い興味を示しており、授業自体は有意義で充実した時間であった。
良かった点として、「興味を持って古典語の読解に取り組んだ。初歩的な質問にも丁寧に答えていただいた」「聞き慣れない日本語の学習ができ、自分の知識習得に役立った」というコメントがあり、「古文を読めるようになりたいという一心で授業に取り組んだ。昔の出来事など教科書では書かれていない当時の生活状況などがわかるので、積極的に取り組むことができた」とか、「前期に続いて受講することで、少しずつよめるようになった」ことが主体的・積極的に取り組む姿勢となって現れたようである。

結果報告書

授業科目名　日本文学演習Ⅰ
評価実施日　平成31年2月14日
担当教員名　黒田　俊太郎　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



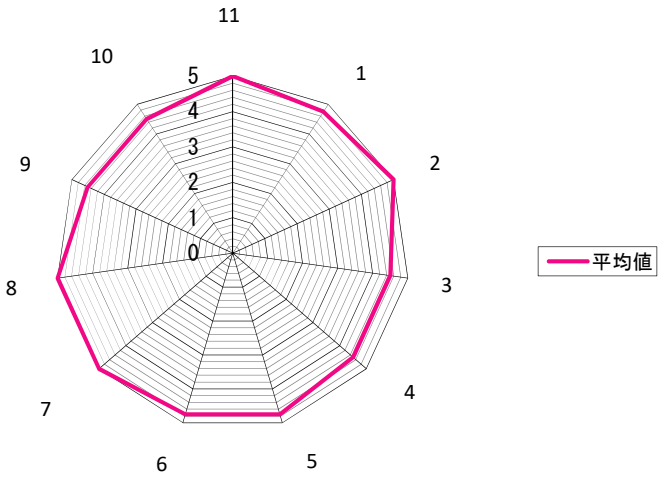
教員のコメント

全ての項目において高い評価であった。今後もさらなる授業改善を心がけながら授業を行っていきたい。具体的には、受講者が授業に主体的・積極的に取り組めるような工夫を行っていく。

結果報告書

授業科目名　日本文学演習Ⅱ
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　小島　明子　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		1				4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	2					4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



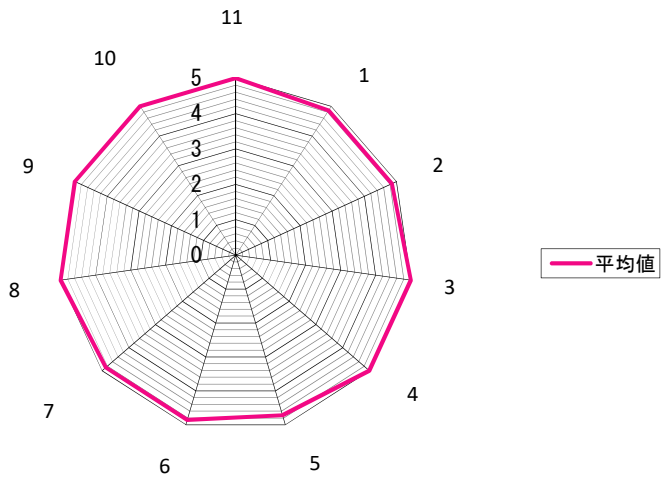
教員のコメント

出席していた院生が4名で、いずれも意欲的であったため、作品を読んだ後の考察・発表などがとても活発であった。院生に助けられていた授業であったと思う。もっと受講生が多く、かつ意欲や知識に乏しい院生が多い場合にどのように対応することができるかが問題であると考える。

結果報告書

授業科目名　日本語教育学演習
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　廣田　知子　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	2					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



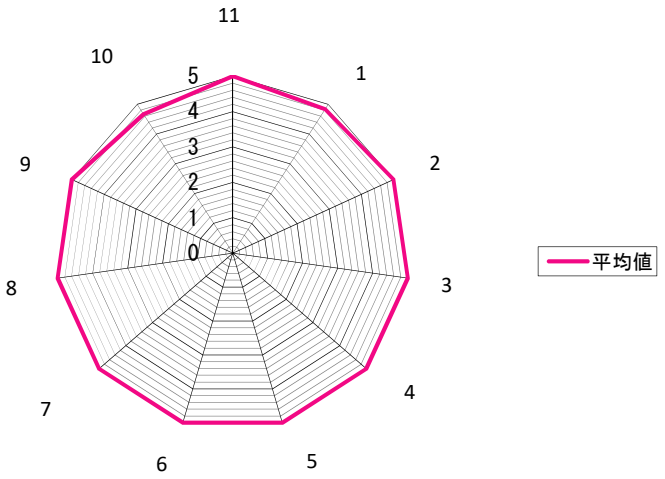
教員のコメント

留学生の割合の多い授業なので，授業内容には工夫が必要であった。留学生にとっては，発表中の日本語チェックなどがあり，発表スキルの向上につながったとは思うが，反面，日本人には少し物足りなさが残ったかもしれない。今後，こういった日本語教師養成プログラムの必修科目に関しては，留学生の割合がますます増えていくことが予想される。しっかり時代に合った，そして受講生のニーズに合った授業内容を組み立てていきたいと思う。院の授業であるため，そして演習という性格上，論文を読んで発表する形は残したいと思う。

結果報告書

授業科目名　日本語文法演習
評価実施日　平成31年2月1日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5		1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



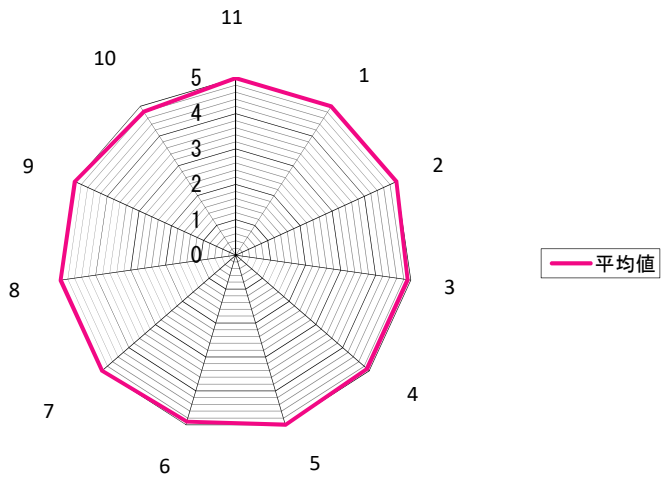
教員のコメント

本授業では，日本語の文法研究の中でもとりわけ幅広く深い洞察がなされてきた「指示詞（コ・ソ・ア）」について，古典的な論文から最近の論文までを幅広く検討することで，従来何が問題とされてきて，現在何が問題として残されているのかを理解することを目指した。また，そのような研究の積み重ねによって得られた知見を日本語教育の現場でどのように活かすべきかを議論した。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「学生が発表の準備をし，積極的に発表をすることで，理解につながるし，また，その発表に対して質問をすることで，より深い理解につながっていたので，良かったと思う。」，「論文を読み，理解したと思っても，発表という形でまとめることが深い理解につながると思いました。」，「この授業で学んだことは，一分野の研究のみならず，今後の人生においても，人の文章・論文・意見を正しく判断する力を養うという点でも人生の学びにつながると思います。」など，演習形式の授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，今年度は受講者が6名（うち1名は研究生）と少なかったため，演習形式の授業としては受講者の負担が大きくなってしまっていたと思われる。授業担当教員による発表（講義）の時間を多めにするなど，可能な限りの工夫を行ったつもりであるが，今後は，受講者の確保や受講者の負担へのさらなる配慮に努めたい。

結果報告書

授業科目名　日本語語彙論
評価実施日　平成31年2月1日
担当教員名　田中　大輝　　回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	10	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	10	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	11						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11						5.0



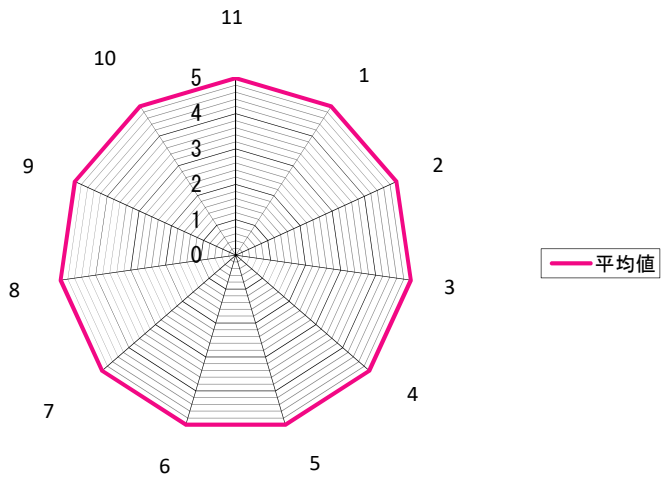
教員のコメント

本授業では，「語彙とは何か」という問題提起を出発点とし，語彙の計量や語の意味など様々なトピックについて理解を深めることで，日本語学習者に対して適切な語彙指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「毎回，授業後に感想を書いて提出し，その内容に質問が含まれていれば，翌週の授業の始めに感想の振り返り（共有）と合わせて，先生が丁寧に補足説明／回答してくれたのが良かった。」，「授業で配布される資料に出てくる参考文献や授業で使用するための書籍等をいつもたくさん持参してくださり，実際に自分の目で見ることができる機会が多くあり，良かったです。」など，授業運営の方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，「もっと深いことを勉強したいと思います。」，「部屋がもう少し広い方が良かったです。」など，授業内容や授業環境に改善（再考）を求める声も出ていたため，今後の参考としたい。

結果報告書

授業科目名　国語科教育学演習
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　村井　万里子　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



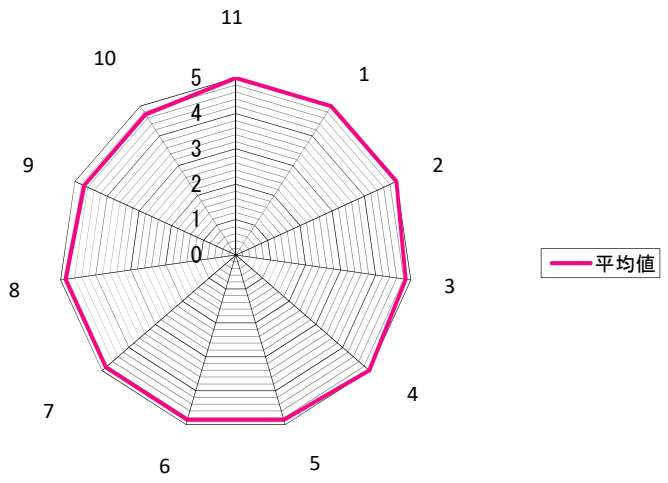
教員のコメント

受講者2名の演習であったため、受講者の問題意識、希望にそって進めた。また、アップデートな話題を積極的に取り上げることができた。

結果報告書

授業科目名　国語科授業演習
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　幾田　伸司　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



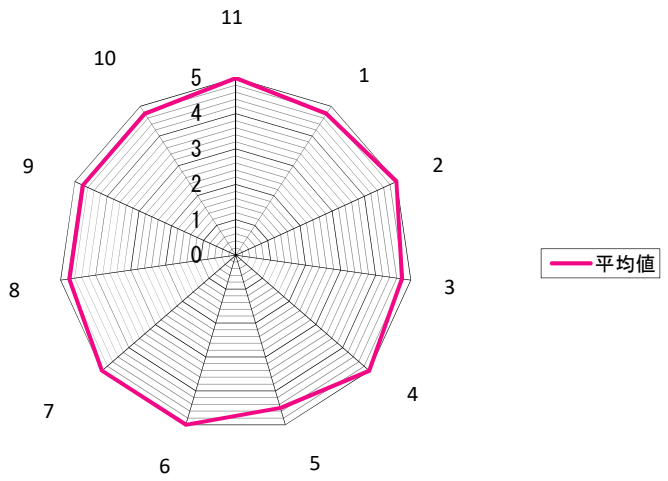
教員のコメント

受講者が少なかったことや、それぞれの関心に基づいたテーマを扱う演習だったこともあり、高い評価をしていただきました。受講者のコメントでも、議論を通して考えを深められたこと、わからないことを積極的に質問できたことなどが、肯定的な評価の理由となっていました。受講した皆さんが主体的に、また互いに受容的な態度で議論に関わっていたので、安心して議論ができ、授業全体に対する満足度も高くなったのだと思います。ストレートの院生からは、わからないことや学習者としての自分の経験など、現職院生からは、授業場面で考えたことや迷ったことなど、受講者の皆さんがいろいろな面から積極的に発言してくれましたので、授業者としても話合いを進めやすかったと感じます。板書や視聴覚機器の使い方などはこれからも工夫していきたいと考えています。

結果報告書

授業科目名　国語科教材開発演習
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　余郷　裕次　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



教員のコメント

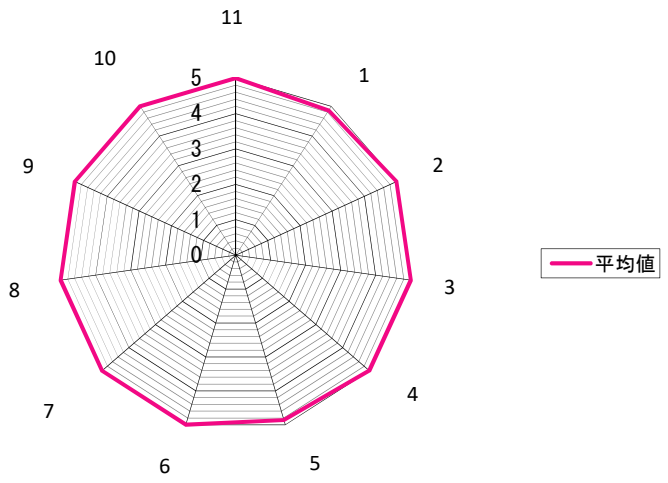
「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の平均値が5.0であった。これは、この授業が受講者にとって一定の満足を与えたものと考えられる。しかし、受講生が5名のみであり、欠席者が1名ありアンケートが4名のみであることから、アンケートとしては、匿名性が保証されていないと言わざるを得ない。受講者は、好意的な評価しかできない可能性が高い。

一方で、5人という少人数であったために、演習の担当が複数回となり負担感はあったものの、発表による達成感や充実感があったと推測される。また、少人数であるため「疑問に思ったことなど、質問できた。他の受講者と意見を交わしたり、互いにアドバイスをしあったりできた。」というメリットが記述されていた。この感想には、国語科教材に対して大学院生それぞれの研究分野からのアプローチが、相互に刺激になったことが示唆されている。例年のことではあるが、演習とはいえ、10名程度が適切な受講者数と思われた。

結果報告書

授業科目名　日本語教育法演習
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　廣田　知子　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	7						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



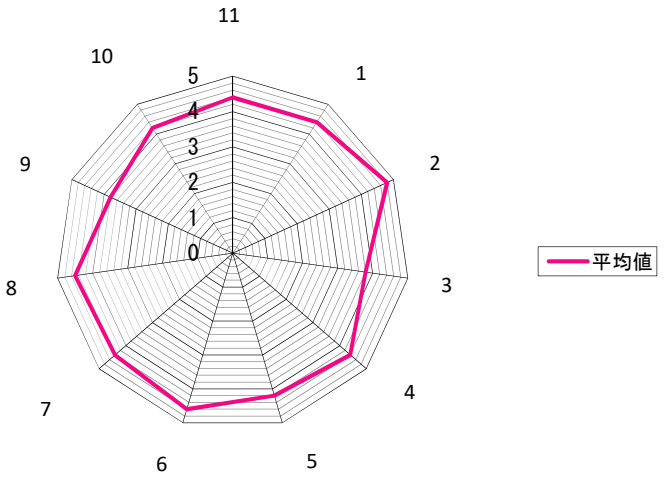
教員のコメント

学生主体の授業として，模擬授業を行ってもらい，受講生で考えた授業を披露し，コメントを述べ合うことで，お互いに学び合える場を提供できたかなと思う。受講生からいろいろな意見をもらって，また自分の授業を客観的に振り返ってもらうことができるということで，教育実習でのスキルを鍛えることにも役立ったと考える。コメントにもっと実用的，専門的な知識を勉強したいという意見もあったが，それは，演習ではなく前期の「日本語教育学研究」や「日本語教育法研究」の中で培ってもらえるのではないかと思う。今年度から新カリになったので，年間を通じての授業展開をしっかり見据えて今後もニーズに応えられる授業に取り組んでいきたい。

結果報告書

授業科目名　英米文化研究Ⅲ（言語文化研究）
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　宮崎　隆義　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	3					4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		3				3.8
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	3					4.4
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	4					4.2
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	3	2					4.6
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	2	3					4.4
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2				1	4.5
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2	2				3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	4					4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	3					4.4



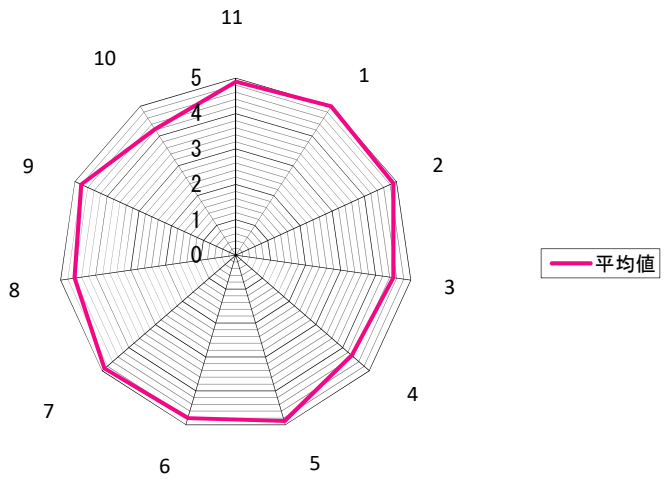
教員のコメント

モチベーションの高い受講生で，やりがいのある授業でもありました。教育の実践力を身につけるには少し不十分に思えたかもしれませんが，テキストをしっかり読むということ，つまりは教材をしっかり読むということが，遠回りながらも重要であることに気づいてもらえたらと思います。

結果報告書

授業科目名　英米文学応用演習Ⅰ
評価実施日　平成31年2月8日
担当教員名　前田　一平　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5					4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4	4	1			1	4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	1				1	4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	8	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	2	1				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	7				1	4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	1					4.9



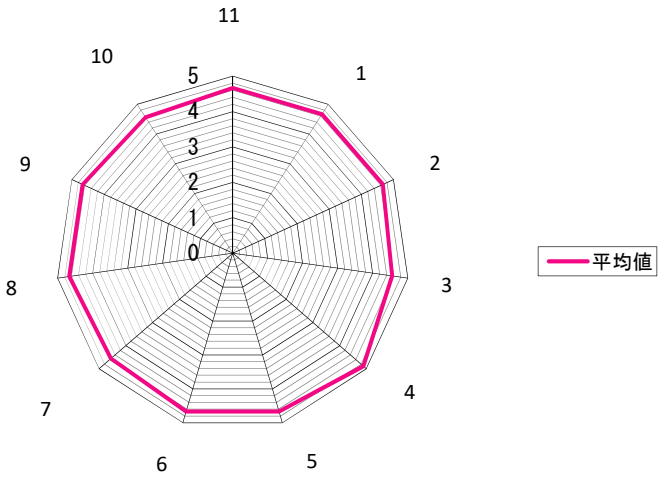
教員のコメント

総合評価の4.9が示すように、非常に高い評価を受けたと判断する。授業中も受講生の反応のよさを実感していたので、授業の活性化に成功しているという自覚はあった。それを証明するような高い授業評価であるので、今後もさらなる改善を怠らずに、自信をもって本授業を継続したい。英語教育に還元しづらい文学の授業を、20年以上本学で教育に携わった経験から、中学校および高等学校の英語教育に直接・間接寄与するべく新たに作り上げた授業内容であるので、それが受講生に評価されたことは大きな喜びであると同時に自信になる。

結果報告書

授業科目名　小学校英語内容構成論
評価実施日　平成31年2月14日
担当教員名　畑江　美佳　　回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	3					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	4					4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	3					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6	3					4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1				4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	3					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	3					4.7



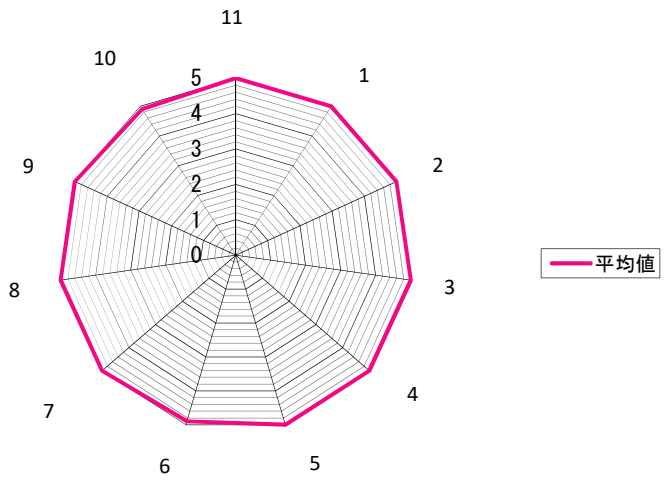
教員のコメント

学生のアンケートでは，バランス良く平均4．7が取れているので，満足のいく授業であったと思う。毎回課題を出し，授業の中でも双方向型授業をしている。常に，アクティブラーニングを意識しているので，その結果であると考える。

結果報告書

授業科目名　初等中等英語科教育演習Ⅰ
評価実施日　平成31年2月19日
担当教員名　佐藤　美智子　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	10						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	9	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	10						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10						5.0



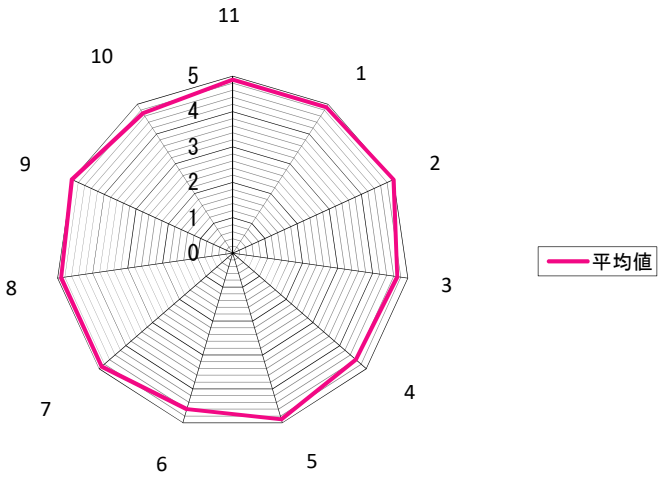
教員のコメント

よい評価をいただきまして，大変有難いです。
授業の主体は学生であり，そのニーズに応えられるよう，自分自身が益々精進し努力していきたいと考えます。
今後も，学生のみなさんとともに，主体的で対話的で，深い学びが生まれる，アクティブ・ラーニングを実現していきたいと思います。

結果報告書

授業科目名　初等中等英語科教育演習Ⅱ
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　山森　直人　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7	2	1				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	7	2	1				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	9	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	1					4.9



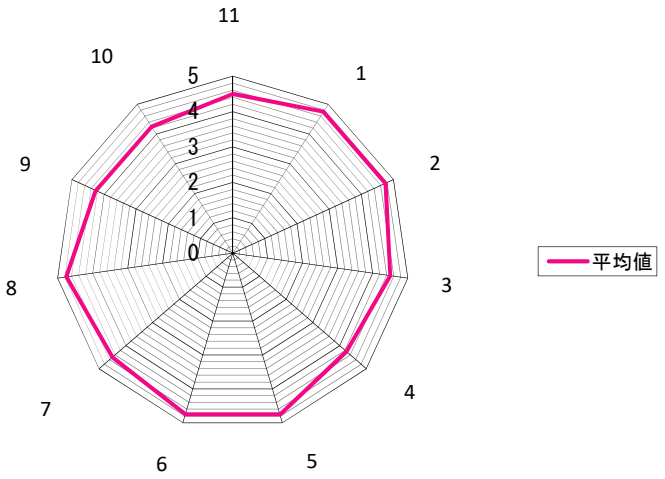
教員のコメント

総合評価が4.9，また全項目が4.6以上であることから，受講者からは高評価を得たと判断できる。今後，専門職学位課程の授業を担当することになるが，修士課程での指導経験に基づきつつ，新しい教育課程に求められる授業の内容と方法を構築していきたい。

結果報告書

授業科目名　歴史学演習Ⅱ
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　町田　哲　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		1				4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3			1			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3		1				4.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3		1				4.5



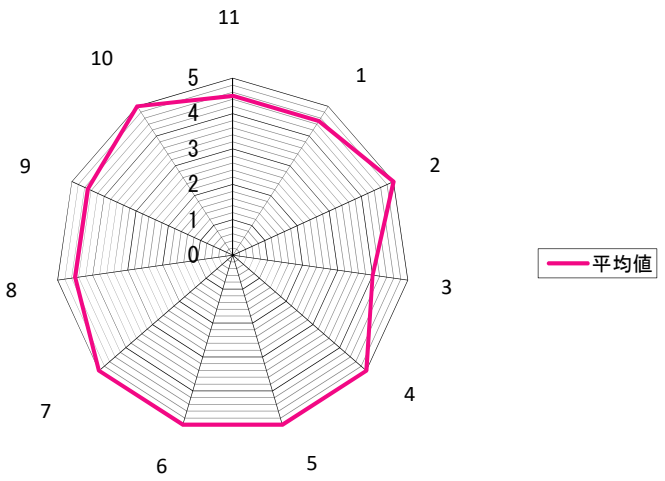
教員のコメント

今年度の歴史学演習Ⅱでは、「山里からみた近世社会」をテーマに、地域社会史の視角と方法について検討した。とくに研究史整理の仕方、分析視角、史料読解の方法、歴史的評価という一連の過程を、具体例に則しながら検討し、議論することができた。受講生4人中、歴史学専攻は1名のみであったが、受講生はみな史料読解等も含めて熱心に取り組んだ。今後はより質問等をフィードバックしながら、演習を進めることができるようにしたい。

結果報告書

授業科目名　法学・政治学演習
評価実施日　平成31年2月5日
担当教員名　麻生　多聞　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2					4.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1					1	5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



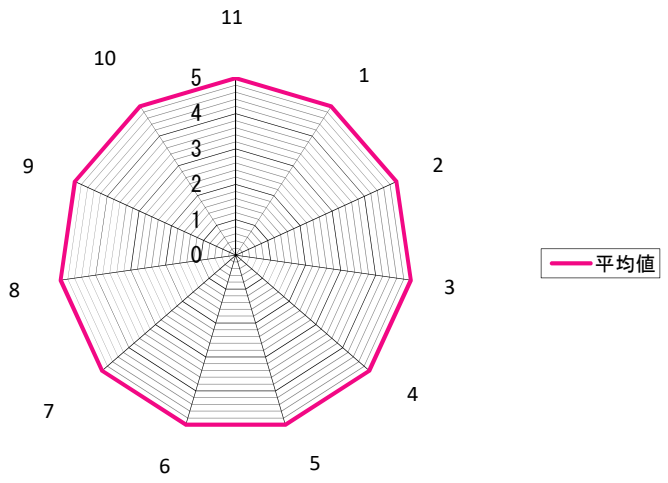
教員のコメント

2018年度の「法学・政治学演習」では、藤原彰『餓死した英霊たち』(筑摩書房、2018年)を講読した。本書は、アジア太平洋戦争の日本側戦死者230万人のうち、140万人の死因が餓死と栄養失調による戦病死であったことを明らかにするものであり、先の戦争の惨禍を語る文脈においてよく引用されるものである。著者の主張の力点は、かような悲惨な事態が一時の局所的なものではなく、戦線全体で恒常的に見られたこと、そしてその責任が挙げて日本軍の強引な作戦指導、兵士の人権を認めず降伏を禁じた非人間性にあったということに置かれている。本書に書かれているような内容を知識の引き出しとして修得することは、学校教育現場で実践されている平和教育において有効な視座を獲得することにつながるものと考え、この文献を演習で採用することとした。受講者2名は予習もしっかりと頑張ってくれており、有意義な演習の時間を持つことが出来たことに感謝したい。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　梅津　正美　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	5						5.0
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	5						5.0
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



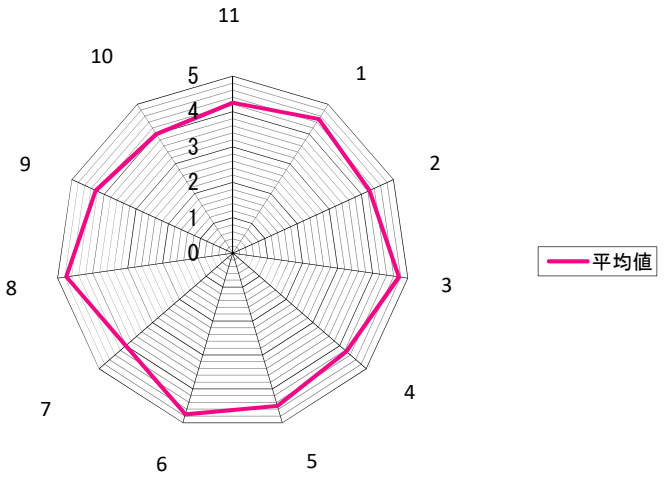
教員のコメント

今次の学習指導要領における歴史学習の改善の方向性の一つに「現代社会の諸課題を、その解決を展望できるように歴史的視座から考察する」ことがある。今年度の授業は、「歴史教育における社会問題学習の構想と展開」を主題に掲げ、具体的な授業例を分析・検討し、類型を明らかにするとともに、その特質と限界について受講学生と議論した。学習指導要領が示す歴史授業改善のための実践的課題を取り上げ考察したことが、受講学生のニーズとマッチし、本授業の高評価につながったものと考える。その中からも本授業の主題・内容・学修方法について課題を洗い出し、次年度にむけた改善を模索したい。

結果報告書

授業科目名　社会科教材開発演習Ⅲ（公民領域）
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　井上　奈穂　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1	1				4.3
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	1	1				4.3
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2					4.5
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	2		2				4.0
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2	1				4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1	1				4.3



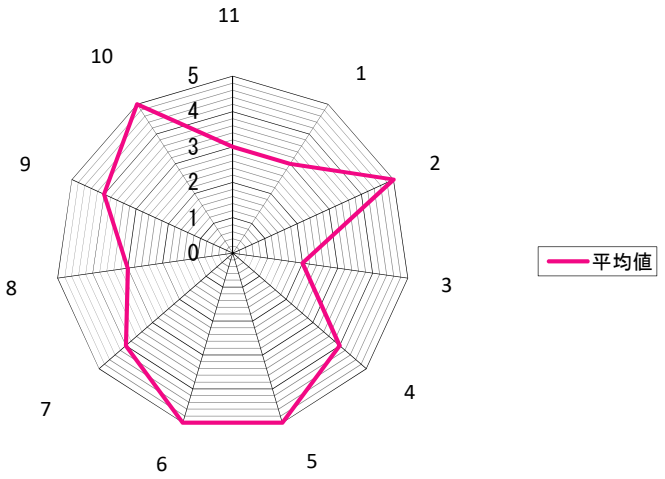
教員のコメント

受講性が少ないため，何とも言えない場，平均が4.3ということで，概ねよかったと思う。実践力につながる内容についての項目が4.8であった点から，内容ではなく，やり方をばージョンアップに努めたい。

結果報告書

授業科目名　代数学演習
評価実施日　平成30年12月21日
担当教員名　平野　康之（嘱託）　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。			1				3.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。				1			2.0
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。		1					4.0
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	（7）受講生に分かりやすく説明した。		1					4.0
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。			1				3.0
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。			1				3.0



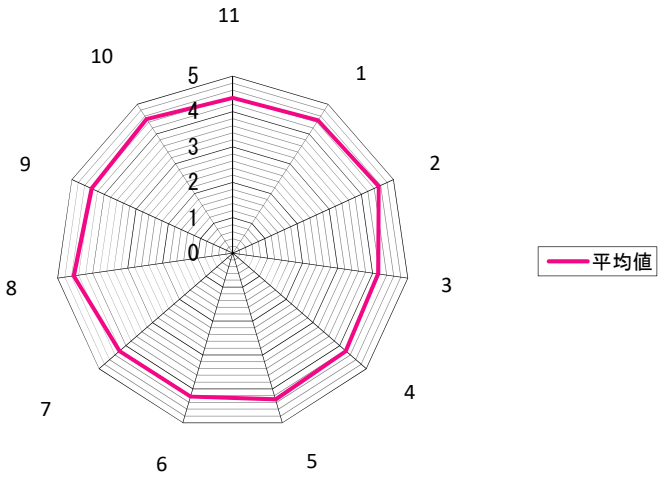
教員のコメント

受講生が一人であり，授業に主体的・積極的に取り組んでくれたので，感謝している。質問項目(2)(5)(6)(1)に対しては，平均値5.0の評価であり，,総合評価の値が3.0であることから，本授業科目の目的はおおむね達成されたと評価できる。一方で，質問項目(3)は2.0であったので，このことについては反省している。今後は，授業概要を適切に表現し，教科書や配布資料を適切にし，教師の実践力の育成につながる内容にするよう工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名　幾何学研究
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	5	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	6					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5	3				4.2
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6	4	3				4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	3	3				4.3
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6	4	3				4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	6	2				4.2
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	4	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2	3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6				1	4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6	6	1				4.4



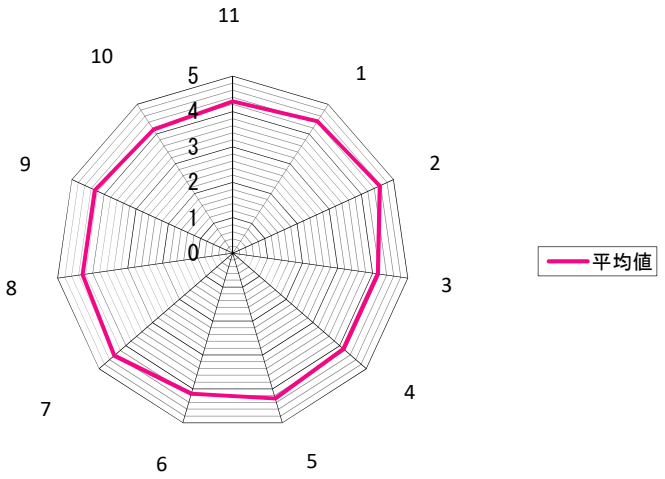
教員のコメント

各項目の評価平均値が4．2から4．5の間で，総合評価が4．4であり，高い評価が与えられていると考える。
自由記述の「よかった点」欄に1件の回答があった。「教材を実際に用いて学ぶことができたのでよかったです。」
改善点，その他の自由記述は無かった。

結果報告書

授業科目名　幾何学演習
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　松岡　隆　　回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	4					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	2				4.1
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	2	2				4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	3	1				4.3
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	2	2				4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	4					4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1	2				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	2				4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	3	1				4.3



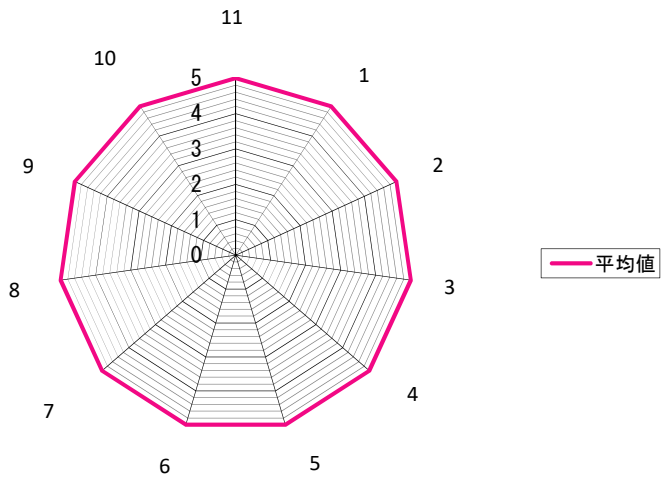
教員のコメント

各項目の評価平均値が4．1から4．6の間で，総合評価が4．3であり，高い評価が得られたと考える。
自由記述の「よかった点」欄に「学校現場で子どもたちが興味をもつことを多く知ることができた。また，そのしくみまで考え，考察することができた。」との回答1件があった。改善点，その他の回答はなかった。

結果報告書

授業科目名　解析学研究
評価実施日　平成31年2月14日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



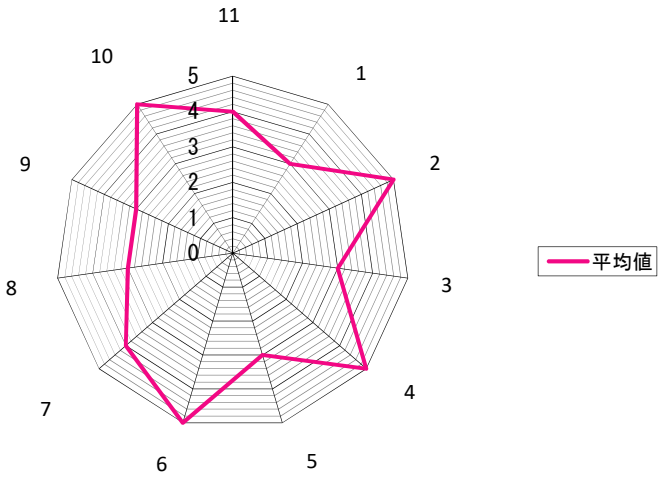
教員のコメント

1名のみの履修生であったため理解度を十分に確認しながら授業を進めることができた。理解が不十分と思われるところでは解説を丁寧に行い，適切な課題を与え自らの力で考えることによりそれを克服できるよう試みた。学生も積極的に授業に取り組み，内容を深く理解し，授業で伝えたい意図を感じ取っていたと思われる。全ての項目において評価5が為されており，授業者側，学生側がともに目的が達成された授業であったと判断できる。

結果報告書

授業科目名　解析学演習
評価実施日　平成31年2月14日
担当教員名　成川　公昭　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。			1				3.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。			1				3.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。			1				3.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		1					4.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。			1				3.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。			1				3.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		1					4.0



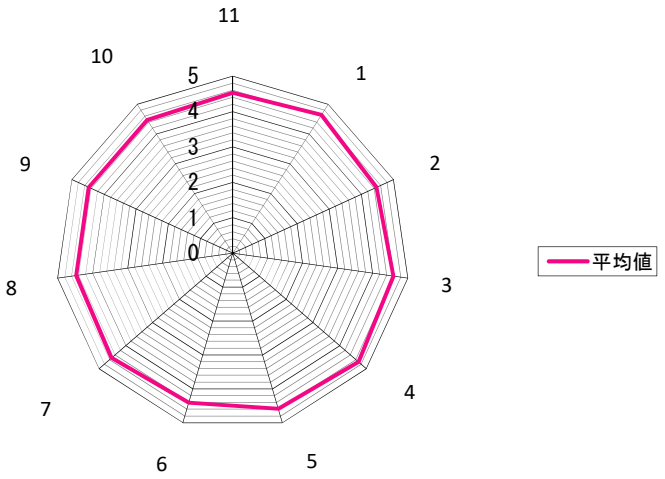
教員のコメント

1名の受講生であったため，特に学生のレベルや要求に合わせて適宜変更を加え，演習を行った。全ての項目が3以上の評価となっているが，5項目において3の評価となっている。視聴覚機器は使用せず，その場でふさわしいと思われる課題を与え演習を行ったため，資料配付も行わず全て口頭により授業を進めた。この点が3の評価になったと思われる。また，できうる限り受講生の興味と理解度に合わせてしまったため，シラバス通りにはならなかったところもある。この点でも3の評価となっていると思われるが，少人数の場合どちらを優先するか今後の課題である。

結果報告書

授業科目名　数学科教育学演習
評価実施日　平成31年2月21日
担当教員名　秋田　美代　　回答者数　17　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	6					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	9					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	7					4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	12	5					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	7					4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	9	6	2				4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	8					4.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	5	2				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	7	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3	3				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	8					4.5



教員のコメント

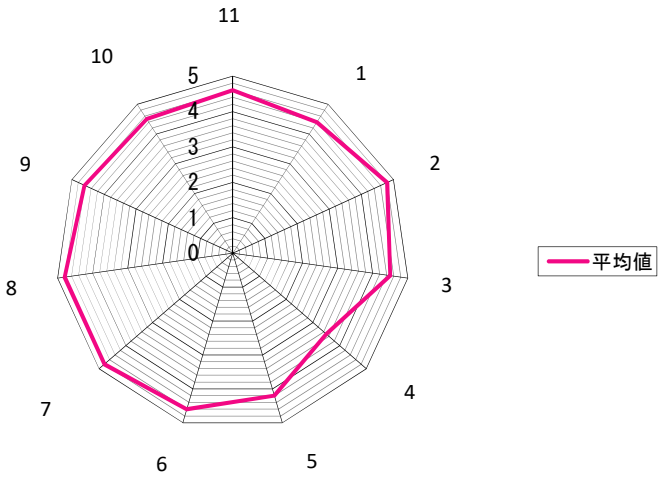
この授業科目の主な目標は，「数学科教育学研究」の授業内容を基盤として，数学科における実践的課題を探究すること，及び数学教育学の研究内容・研究方法についての理解を深めることであった。総合評価の平均値は4.5，評価の平均値が高かった質問項目は，「(4)授業では，シラバスに示されたアクティブ・ラーニング゛が，実施されていた。」，「(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。」，「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」，「(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。」等であった。アンケートに記述された意見等から，履修者は数学の指導法や教材についてしっかりと思考しており，授業の内容は概ね履修者に適した内容であったと判断できた。

零和元年度は，大学院の組織の改編により，これまでよりも少人数での授業になることが予想されることから，少人数における効果的なアクティブ・ラーニングの在り方を検討し、授業に反映させたい。

結果報告書

授業科目名　数学科授業研究
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　早田　透　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	3					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				1	4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。		1	1			3	3.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2	1				4.2
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	2					4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				1	4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	2					4.6



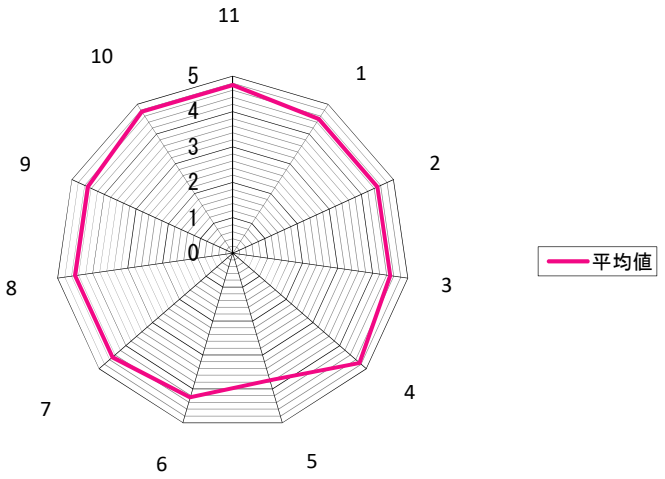
教員のコメント

(4)のN/Aが3に上ったことは授業を非常によく理解した証拠であり，大変喜ばしい。何故ならば，授業中に，溝上氏の提唱した学術的意味とその限界，一方で政治的用語となった課題点を述べ，数学教育において対置され得るSRPなどの概念を提示したからである。
今後とも，この調子で授業を展開していきたい。

結果報告書

授業科目名　数学科教材開発演習
評価実施日　平成31年2月14日
担当教員名　佐伯　昭彦　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	2					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。		3	1				3.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	1	1				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	2					4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1					4.8



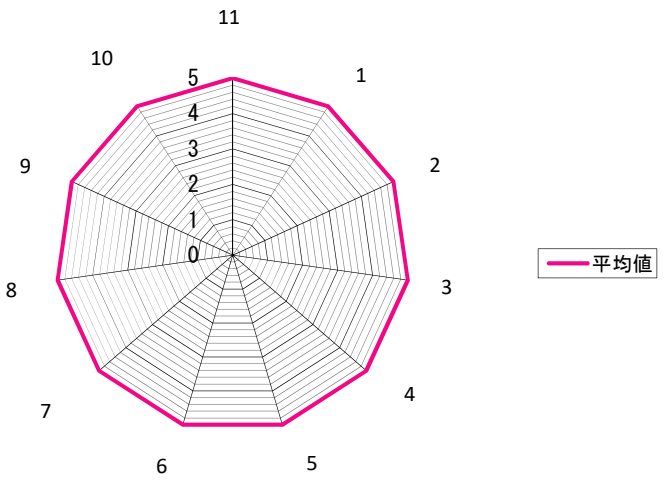
教員のコメント

アンケート回答者4名に対して，1つの質問項目以外は4点台の評価で，総合評価は4.8であった．本授業は，松茂町立図書館の来館者に和算を紹介する活動を通して，多種多様な来館者に応じて分かりやすく説明する能力を高めるとともに，文化を地域社会に継承する教師の役割の重要性を理解することが目的であった．このため，和算の題材の選択，教材開発，ワークショップの企画など，学生達の主体的活動を重視したアクティブラーニング型授業を行った．その結果，質問項目(4)「授業では，シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが，実施されていた」が高い評価「4.8」を得ることができた．さらに，質問項目(10)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」が高い評価「4.8」を得ることができた．このことから，学生の主体的活動が概ね良い評価を得た大きな要因だと考えられる．また，ワークショップ参加者のアンケートからは概ね良好な結果が得られた．以上のことから，本授業の目標は達成されたと考える．

結果報告書

授業科目名　物理学特論Ⅲ
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　粟田　高明　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



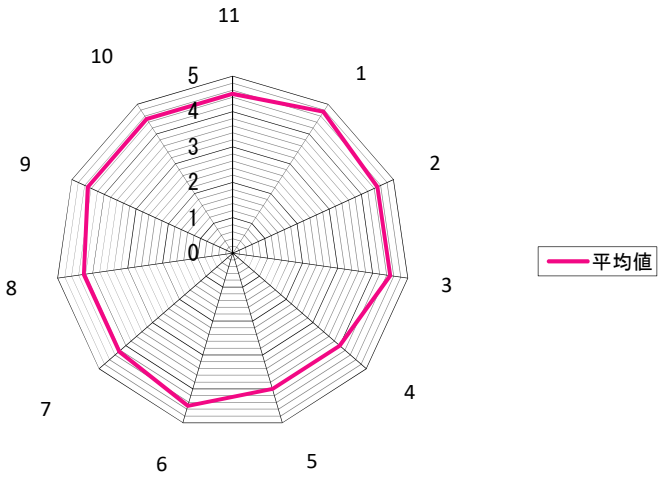
教員のコメント

来年度についても，今年度同様に授業を進めていきたい。

結果報告書

授業科目名　物理化学特論
評価実施日　平成31年2月15日
担当教員名　武田　清　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1	2	1				4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2	1				4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	2					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	3					4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	3					4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2					4.5



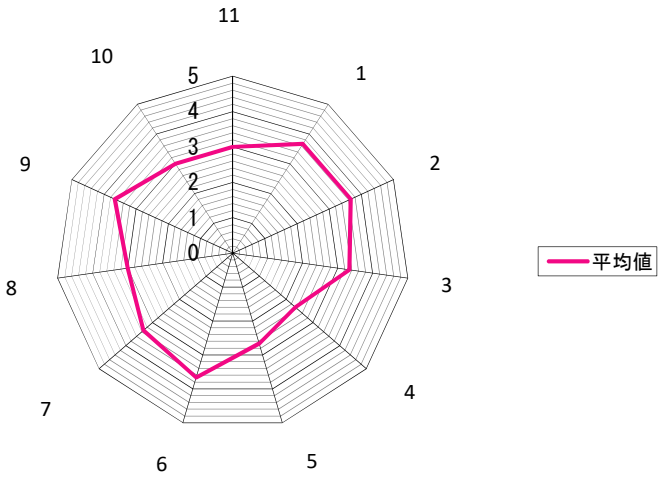
教員のコメント

本授業は，大学院向けの専門科目である。内容的には，高校化学や環境について，取り扱う際に教員がとまどうであろう内容について，できる限り深く掘り下げることを目標としている。内容の取り扱いとしては，実験を含めた授業を通して，十分に行ったつもりであるが，内容がやや高度であったかも知れない。とはいえ，多くの化学系大学では学部2～3年で取り扱う内容であり，基本的な物理化学の教科書に掲載されている題材ばかりを取り上げたものである。現場では，そのようなレベルの同僚がいる職場となることもあり，教職に就いた後に苦労することを思えば，今少しでも苦しみながら内容を身につけておく必要があろう。成績評価については，授業の後半で，英語のテキストを題材とするセミナーを通じて行った。テキストの内容は，物理化学に関する歴史が主たる部分であり，科学的内容を深く掘り下げるものとは異なる。一方で，現場で授業を行う際に，活用可能な知識を得ることができたことがうかがえる。

結果報告書

授業科目名　地学実験法特論
評価実施日　平成31年2月13日
担当教員名　村田　守　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。		2	1				3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		2	1				3.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	2				3.3
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。			2		1		2.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。			2	1			2.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。		2	1				3.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		1	2				3.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。		1	1	1			3.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		2	1				3.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1	1			3.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。		1	1	1			3.0



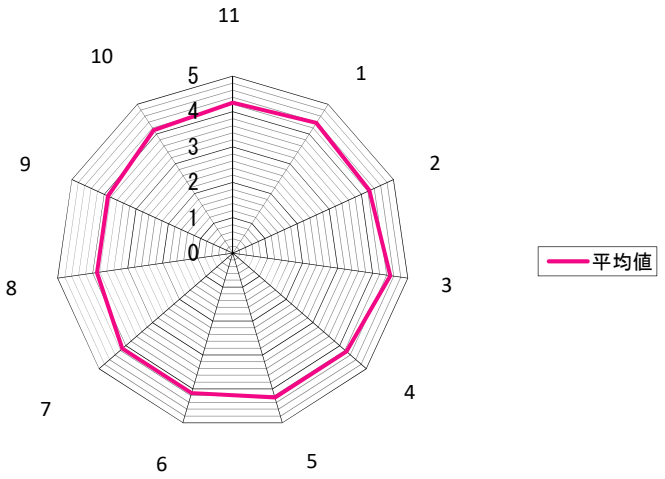
教員のコメント

実験実習を伴う講義では，学生実習による実験器具の破損があり，また消耗品の補充も必要になる。教員の研究費（校費）をこれらに当ててきたが，特命教授就任後校費の支給がほぼ無くなったために，座学の割合を多くした。受講生は座っていれば単位が貰えると思っているようで，ノートをとることも知らないようだ。脱ゆとり世代の学部生はゆとり世代の学部生の学力に大きく劣り，大学院生は脱ゆとり世代の学部生の学力の足下にも及ばない。大学院の講義では，せめて高校の内容ぐらい理解させたいと思ってきたが，講義中の質疑内容から判断する限り無理なようだ。今後は，学力の向上を目指すのではなく，自主的な 取り組みが出来るように幼稚園～小学校低学年の内容にシフトしたい。

結果報告書

授業科目名　理科教材開発研究Ⅰ（物質とエネルギー）
評価実施日　平成31年12月14日
担当教員名　寺島　幸生　　回答者数　8　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	3	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3		1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4					4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	4	1				4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	4	1				4.3
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	5	1				4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	4		1			4.1
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	5	2				3.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	5	2				3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4		1			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	3		1			4.3



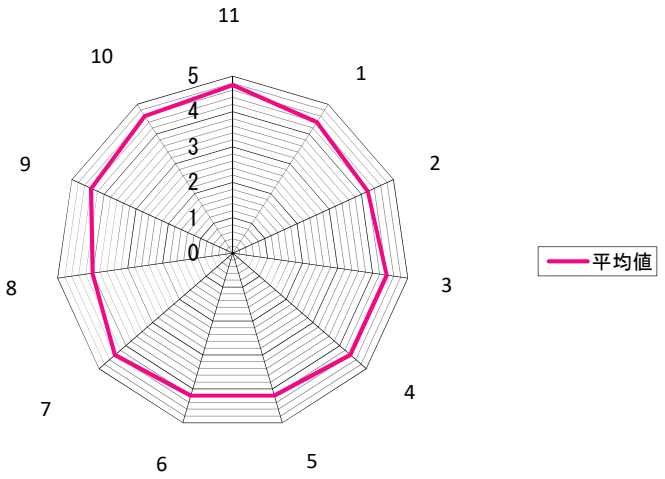
教員のコメント

アンケート集計結果より，授業は，全体を通して学生のニーズに即した内容，方法であり，学生側も主体的，積極的に取り組むことができたと判断できる。

結果報告書

授業科目名　教科内容構成（理科）
評価実施日　平成31年2月18日
担当教員名　粟田　高明,胸組　虎胤,佐藤　勝幸,村田　守　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	3					4.4
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	4					4.2
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3					4.4
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	1	1				4.4
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	2	1				4.2
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	1	4					4.2
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	2	3					4.4
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	3	1				4.0
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3					4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3	1				1	4.8



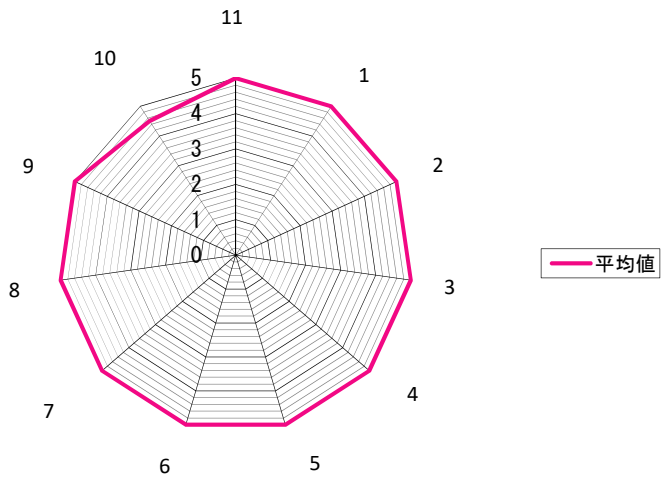
教員のコメント

教育実践コア科目である「教育実践フィールド研究」と連携して「理論」と「実践」をつなげた授業科目であったと思う。

結果報告書

授業科目名　歌唱表現演習
評価実施日　平成31年2月15日
担当教員名　頃安　利秀　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



教員のコメント

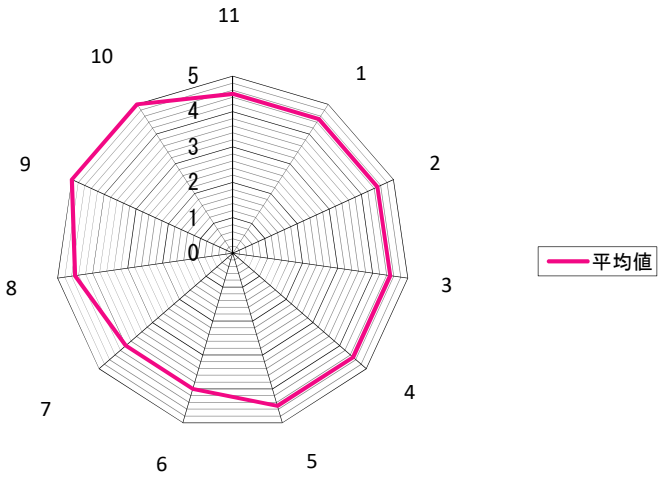
本演習は，声楽実技能力を高め，小・中・高等学校における歌唱教材が「自然で無理のない歌い方」で歌え，且つ指導できるようになることを目標にしている。実技能力は受講生一人ひとり違っているため，できるだけ個々の能力に合った指導を心がけている。その結果としてこのような評価につながったと考えている。

この年度の受講生には，芸術系コース（音楽）の大学院生がおらず，他コースの学生と科目等履修生の二人であったため，受講生個々の音楽的な実技能力にはかなり差があった。しかしこの授業では，夫々が自分のからだを無理なく使い，自然で無理のない歌い方ができるようになることを目的としており，決して音楽的な実力を評価する授業ではない。そのため，自分の実力に見合った楽曲を選び，自分なりに自然な歌い方ができれるように指導を行った。

結果報告書

授業科目名　楽曲分析研究
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　松岡　貴史（嘱託）　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1					4.5
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	1		1				4.0
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	1		1				4.0
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



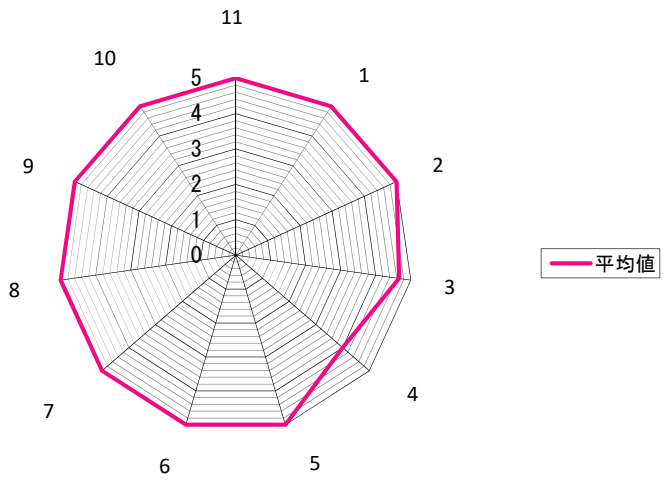
教員のコメント

回答者2名、自由記述のコメント無しなので、これだけでは判断できない。

結果報告書

授業科目名　音楽文化比較研究
評価実施日　平成31年2月18日
担当教員名　山田　啓明　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1	1	1				4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



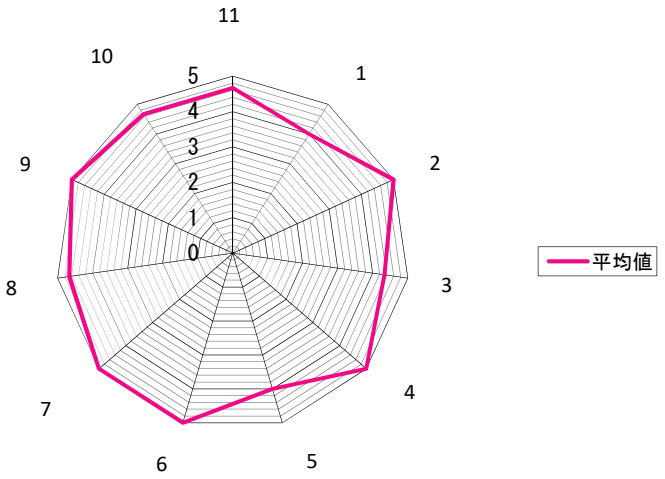
教員のコメント

授業では，討論こそなかったが，毎回学生に発表を担当させていた。これでアクティブラーニングがなかったと思われるのは心外である。

結果報告書

授業科目名　教科内容構成（音楽科）
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　頃安　利秀,鉄口　真理子,森　正,山田　啓明,山根　秀憲　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2			1			4.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1				4.3
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3						5.0
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	2			1			4.0
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	1					4.7



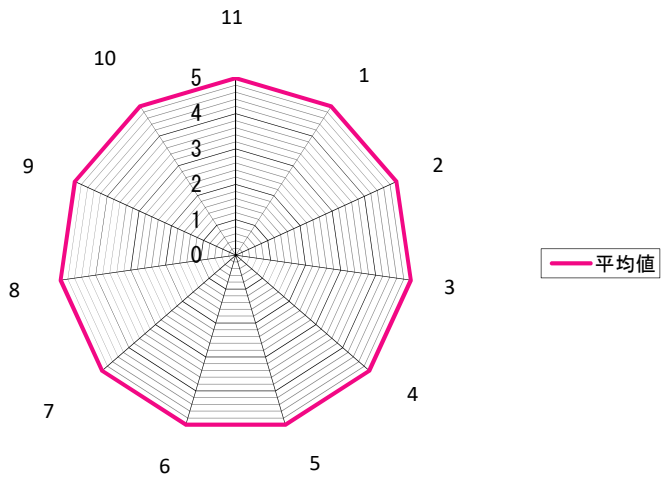
教員のコメント

教科内容構成の授業については，結局各教員とも授業展開が手探りのままに終わってしまった反省がある。

結果報告書

授業科目名　油画制作演習
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　鈴木　久人　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



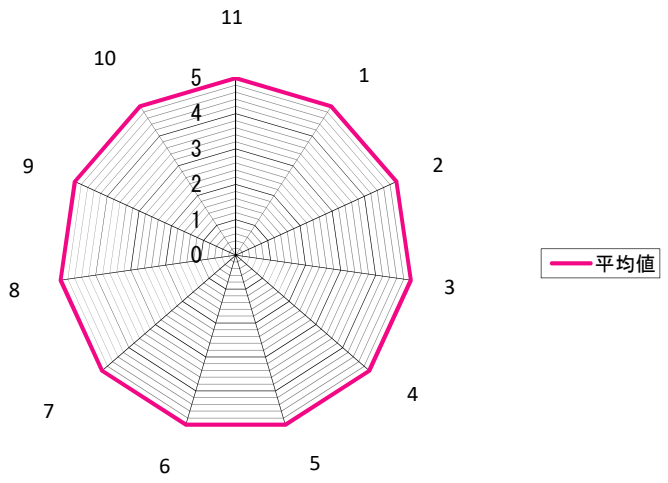
教員のコメント

質問項目，総合評価ともにすべて5.0の評価であり，自由筆記の項目もこの授業に対して好意的なものであった。しかし，受講者は1人であり，今回はこれに対するコメントは控えたく思う。アンケートに丁寧に記入いただいた学生には感謝している。

結果報告書

授業科目名　版画制作演習
評価実施日　平成31年2月8日
担当教員名　鈴木　良治　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



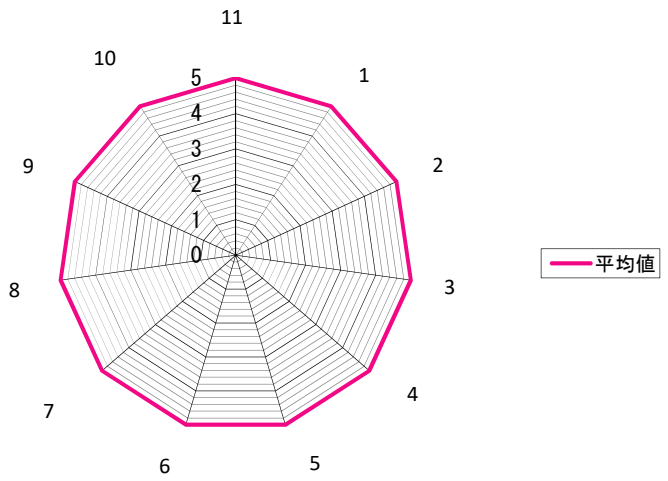
教員のコメント

受講生と話しながら作品の細かな改良点を探した。最初教えた技術だけでなく新しい表現を見つけることができた。美術教育は技術を後進に伝えることと後進のものから先生が教わることで新しいデータを増やすことができる。版画は機材がなくてもできる表現はあるが、プレス機や腐食槽感光台など機材を使うとより深い技術で新しい表現を表すことができる。デジタル出力より情報の多い、アナログのインクによる刷りが受講生の刷った時の「面白い。」になるのでわないか。デジタルでできることは増えていくけどもアナログの感覚はこれからも必要なものと思う。

結果報告書

授業科目名　彫刻制作研究
評価実施日　平成31年2月13日
担当教員名　野崎　窮　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



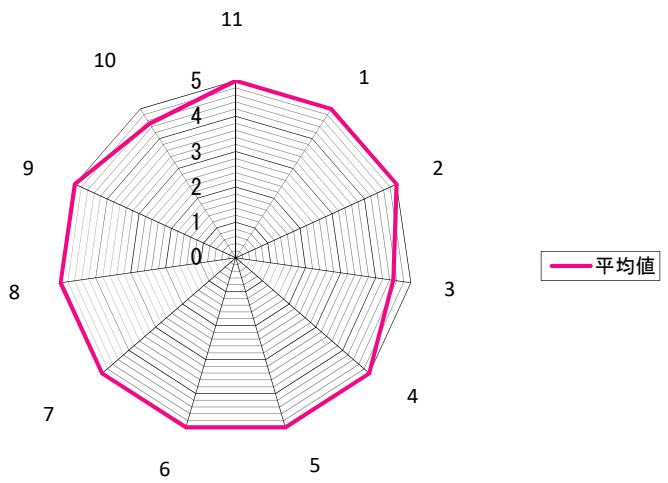
教員のコメント

上記からわかるようにすべてのアンケート項目が5の評価であった。このようなことは今までなかったので驚いている。その理由は、受講生が少なく、指導が十分にできたからであると考えている。実技の指導は個人の能力を見きわめ、アドバイスの内容を考えなければならず難しいが、今回はうまくできたようだ。

結果報告書

授業科目名　デザイン制作研究
評価実施日　平成31年2月13日
担当教員名　内藤　隆　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



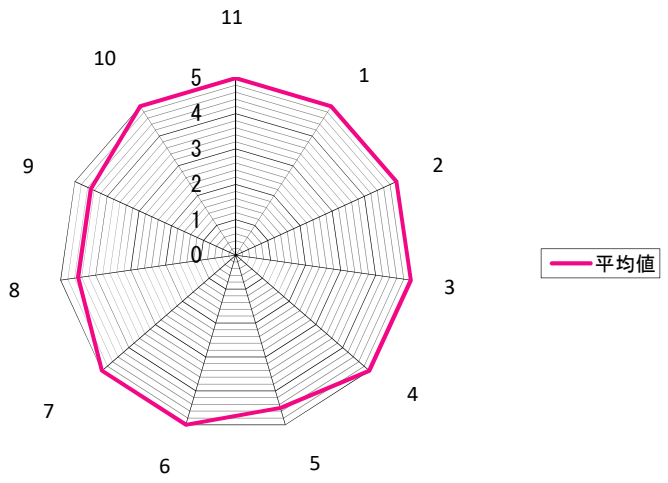
教員のコメント

本年度の登録者は2名で、うち1名が美術教育コースの学生、もう1名は他コースからの受講者だった。
この授業は以下の様な流れで運営した。1時間目は全体の授業運営説明。2～6時間目はAdobe社のIllustratorの初歩的用法解説、トレーニングとしてこのソフトを使用した地図制作。7～8時間目はデジタル一眼レフの操作方法解説とスタジオでの照明操作解説および撮影演習。9時間目は撮影実習。10時間目は印刷原稿を作成する際のIllustrator、Photoshopの注意点解説。11～14時間目は自分の想定した学校もしくは大学院美術コースのパンフレットを想定したA3サイズ両面の印刷物原稿制作。15時間目が相互発表・作品講評。
今年度の受講者は片方は使用ソフトの操作経験があり、片方が初心者だった。少人数だったためソフトの解説は教卓ではなく2名の間の機材で操作しながら解説・授業した。制作にあたっては各質問について直接対応する形式をとった。解説資料は一部紙媒体で渡しているが、大方は自分のウェブページに準備しておき、これを見せた。少人数であったため、個人の要望に直接答える形で資料を提供したり自分の方法論や経験談を伝えることができた。
さて、評価のグラフを見ると全てにおいて4以上の評価を受けており、基本的に満足感を得られていると判断できる。自由筆記の記述では良かった点としては1名から「授業内容が面白かった。色々な内容が勉強になった」とあり、もう1名からは「Illustratorの使い方が知りたかったので習うことができて良かった。講義の途中に疑問に思ったことに対して丁寧に答えて頂き大変勉強になった」とあった。改善点の要望は本年度は特に挙げられていなかった。『授業に主体的・積極的に取り組んだ』理由を記述させた問いについては1名のみから「ソフトの使い方に不慣れであったため、なかなか使いこなせなかったため。またカメラの授業は新鮮な発見がたくさんあり、楽しかったため」とあった。自由記述の内容は以上であった。今回の授業では他コースからの受講者から色使いや構成についての質問も多く出て、授業者としてもいくつか改善のためのヒントや発見があったように思う。今後整理して各授業内容の向上を目指したいと考える。

結果報告書

授業科目名　映像デザイン演習
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　内藤　隆　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	1					4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1					4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



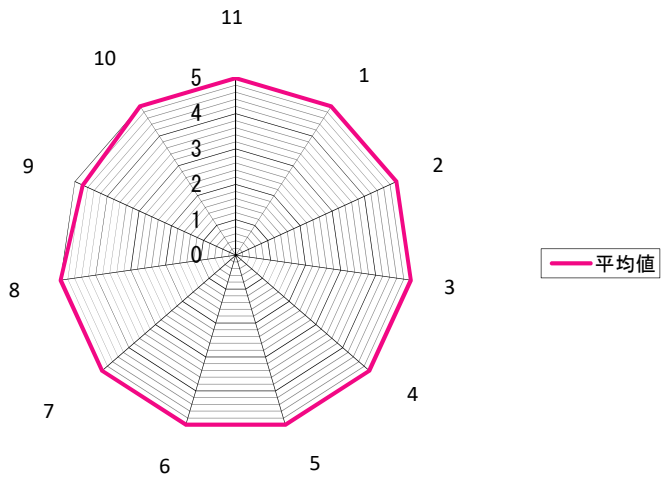
教員のコメント

本年度の受講者は2名であり、授業は昨年同様以下の流れで運営した。初回には、年間カリキュラムの説明に続き、映像資料の視聴と情報交換の手順説明を行った。2～10時間目は、研究室および図書館の映像資料を視聴させ（各自が別々の作品を鑑賞）、授業時には特に印象的だった部分等についてお互いに紹介させ情報交換しあう方法をとった。2・3時間目はサイレント映画時代、4・5時間目はトーキー映画黎明期、6時間目は日本映画、7・8時間目は実験アニメーション、9時間目はCM（海外・日本）、10時間目は実験映像・ミュージックビデオ作品という流れで視聴経験と情報交換を積み重ねさせた。11時間目前半にはデスクトップでのビデオ編集方法の概説を行い、14時間目まで各自で短編映像作品の制作を実施、最終回に作品提出・講評と言う内容で進めた。アンケート結果の数値からは全ての項目で4以上を示されており、概ね好評であったと判断できる。さて、本年度の自由筆記の感想で良かったと思われる点は1名から「様々な映像作品を鑑賞でき、映像の見方を深めることができた」、「動画編集ソフトの使い方を学ぶことができた」、またもう1名から「教員の授業の説明が詳しく、良かったと思う」とあった。改善すべき点については1名のみから「授業の時間数をもっと欲しいと思う」とあった。『授業に主体的・積極的に取り組んだ』理由を記述させた問いについては1名から「動画制作はアイデア出しから完成まで積極的に取り組めたと思う」、「映像鑑賞も興味を持って毎回見ることができた」とあった（自由記述の内容は以上である）。各受講者には各自の視点から楽しみを感じて受講してくれたことに感謝したい。今回の評価を糧に、今後も各授業内容を向上させたいと考える。

結果報告書

授業科目名　工芸制作研究
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　栗原　慶　　回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



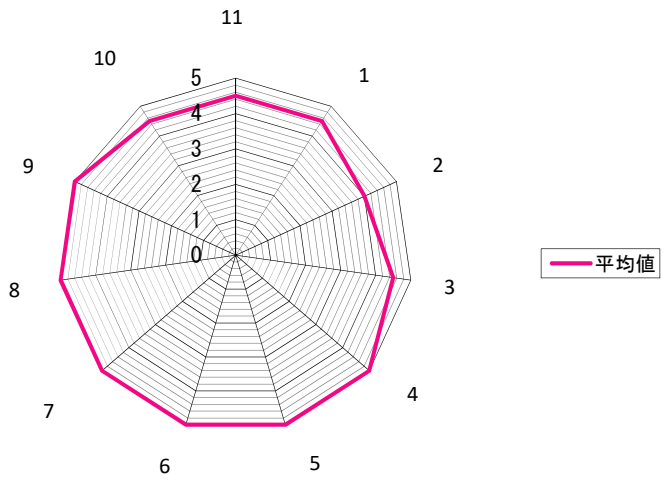
教員のコメント

受講者が4人ということで，細やかな指導ができたと思う。うち2名が現職教員であった。実技の経験及び習得に重点を置く授業の場合は，受講者数が少数の方が満足度が高くなるのは当然なところもあるが，手で作ることの面白さが実感してもらえたのではないだろうか。(9)の板書や視聴覚機器の使用について1名の4点評価があったが，記述による指摘がないので具体的な改善点がわからなかった。一時間の授業内で，視聴覚機器による講義と実材制作を兼ねる際の組み立てが，スムーズにいかない場合があったかもしれないので，その点は今後のすべての授業において改善できればと思う。その他の記述については，すべて肯定的な意見であった。

結果報告書

授業科目名　総合造形研究
評価実施日　平成30年12月25日
担当教員名　髙橋　耕平　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1					4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	1					4.5



教員のコメント

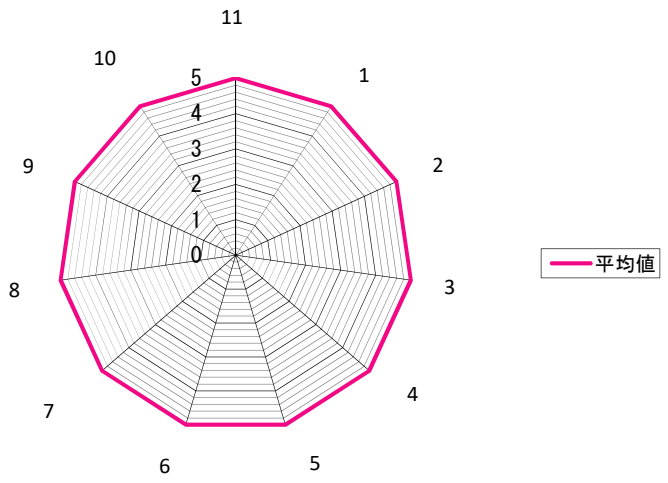
素材やメディアを限定するのではなく、テーマから方法を導き出し、作品完成へつなげるワークショップ形式の授業を展開した。今回のワークショップ形式の授業は、そのまま美術教育の現場で援用することができることを目指し、将来教える側となる受講生の実践を重視した。

授業ではテーマ・課題に対する現代美術の先例を提示し、それを参考にしながら限られた時間で各々の思考を形にすることを要求し、そこに作品ではなく、展示環境の必然性までも求める高度な授業であった。故に受講生にとってはタイトなスケジュールであったことは否めず、授業後や帰宅後に事後学習をしてもらうことで最終的な成果物が完成した。授業内容とタイムスケジュールは受講生のペースを見ながら現場で変更を加えたが決してベストではなかったことは反省点である。旧来の美術教育（造形表現を中心とした教育）に慣れ親しんだ受講生からすると、最初は取っ付きにく現代美術のイメージを更新でき、かつ各々の教育現場で利用できる授業であれば幸いである。

結果報告書

授業科目名　芸術学演習
評価実施日　平成31年2月21日
担当教員名　小川　勝　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



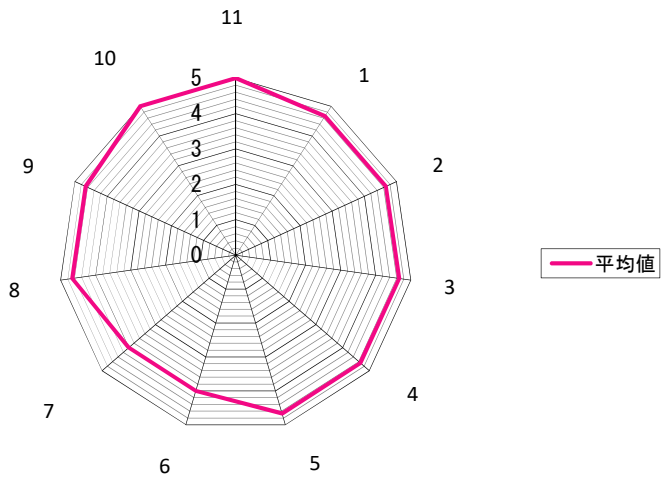
教員のコメント

1名の受講生であり、美術史で修士論文を書こうとする立場で、極めて熱心に受講していた。

結果報告書

授業科目名　スポーツ・トレーニング研究
評価実施日　平成31年2月12日
担当教員名　南　隆尚　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	1					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1	1	1				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1				4.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



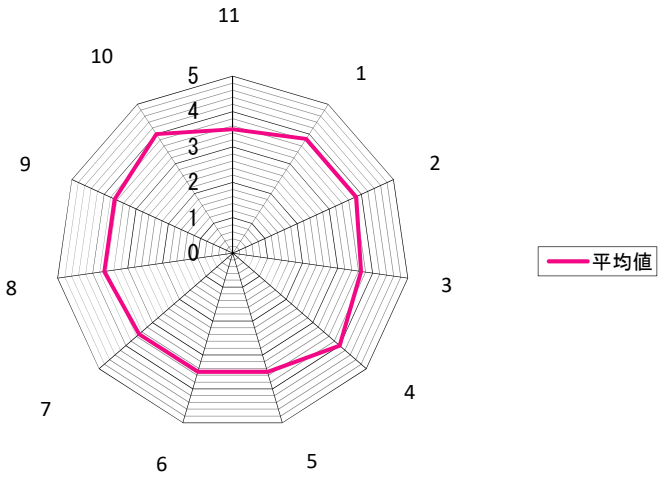
教員のコメント

【分析】
本授業では，『授業の内容』の項目では全ての項目で平均4.7であり，概ね問題ないものと考える。しかし昨年度も『(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。』の評価が低く，問題箇所について受講生の反応を深く観察する必要がある。授業の進め方では『(6)受講生に分かりやすく説明した。』，『(7)受講生に分かりやすく説明した。』の比較的評価が低かった。この授業は，受講生が少ないため，本人が希望する内容をシラバスから取り出し，各人の興味を元にプレゼンテーションしてもらい，それを補う形でこちらが解説するという授業形態であった。昨年度は高い評価を得られていた。受講生間で理解度が異なるため，その内容を補完的な役割で解説するべきであったと反省している。ただし，多くの評価を「4」としているものもいることが考えられ，その評価基準を「3」にしてもらうように指示するなど，授業評価の実施方法も検討する必要がある。
最後に授業内容の『(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。』や『(10)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。』は平均5.0であり，概ね良好だと考えられた。

結果報告書

授業科目名　学校保健学研究
評価実施日　平成30年12月21日
担当教員名　吉本　佐雅子　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1	3				3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2	1	1			3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	2	1			3.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	2	2				4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2	2	1			3.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1	2	2	1			3.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		4	1	1			3.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1	2	1			3.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	1	2	1			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	2				4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2	2	1			3.5



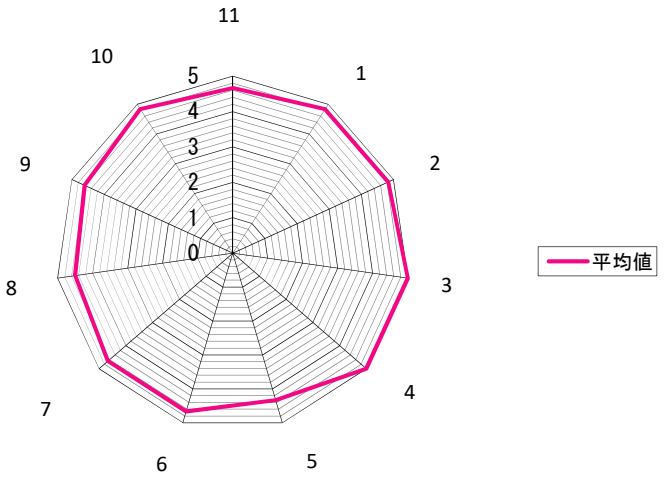
教員のコメント

総合評価はあまり良くはなかった。本年度の本授業は例年とは方針を変え，学校保健分野で各自，関心がある事項についてまとめ，パワーポイントを用いて発表させ，質疑応答の時間をもった。授業内容としては，広く，むしろ散漫になってしまい，受講生の関心が十分に得られなかった。
もっと，授業内容を絞り，情報収集の時間を与えて，科学的なまとめ方をさせたほうが良かったと考えられた。

結果報告書

授業科目名　教科内容構成（保健体育科）
評価実施日　平成31年2月6日
担当教員名　締引 勝美,乾 信之,木原 資裕,田中 弘之,藤田 雅文,松井 敦典,南 隆尚,湯口 雅史　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	（3）教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6						5.0
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	2	1				4.3
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	4	2					4.7
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	3	3					4.5
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	2				1	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2					4.7



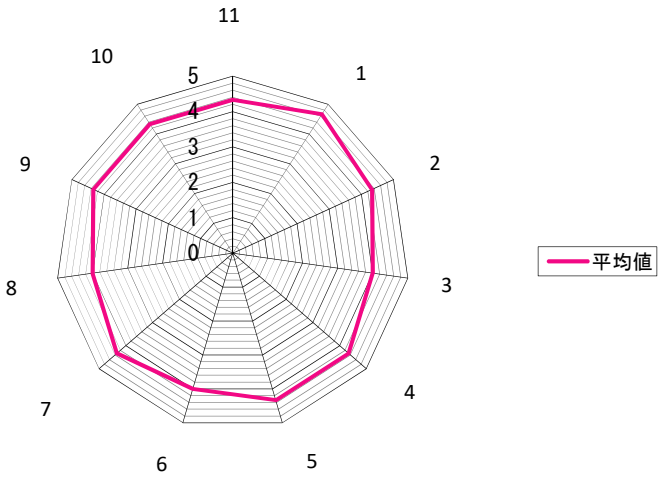
教員のコメント

授業教材についての研究もすすみ，受講生の高い評価をえることができた．とりわけ，保健体育科の広い専門領域（体育科教育学，体育学，運動学，保健学など）の本質的な部分に対する見方・考え方についての詳細な指導ができたことによると推察できる．今後の課題としては，本授業の成績評価についての受講生に対する説明を十分おこなうことである．

結果報告書

授業科目名　情報技術演習
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2					4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1				4.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1	2					4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	2					4.3
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1	1	1				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	1	1				4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2					4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1	2					4.3



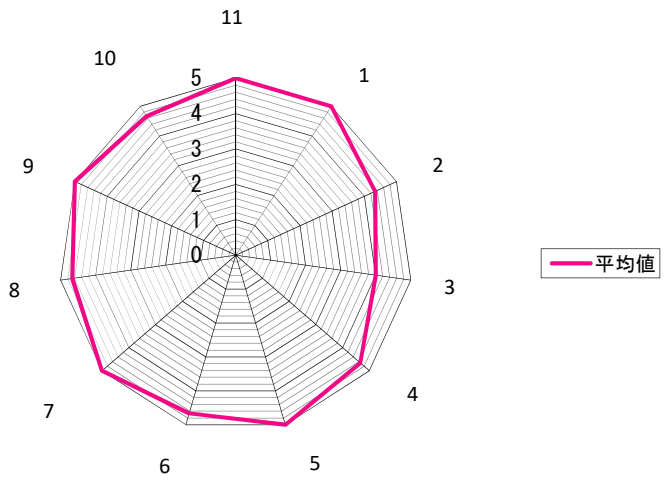
教員のコメント

この授業は学校における情報セキュリティの具現化としてのネットワーク上のファイアウォール構築を行った。Linuxに関わる高度な知識が必要であったが，受講者は何とか理解してくれたようである。授業レベルが高度な状態と照らせると，概ね妥当な評価と思える。

結果報告書

授業科目名　ディジタル制御研究
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　菊地　章　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2					4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1	1				4.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	1					4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	1					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



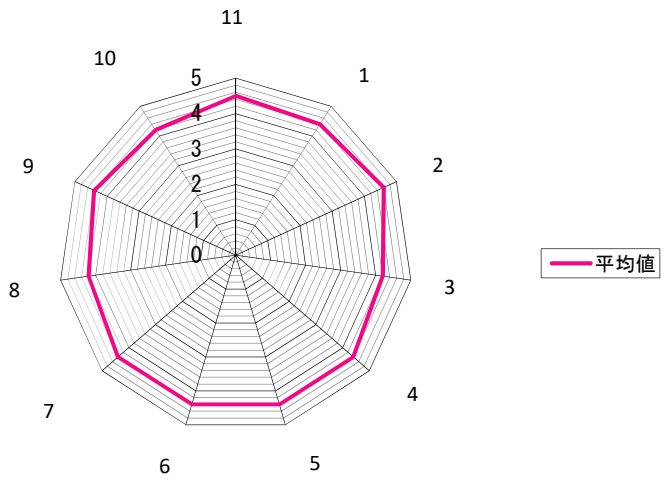
教員のコメント

概ね満足された授業と評価できるが，専門的知識を深める項目と実践力の項目の評価が少し落ちている。学校における授業実践との関連性を今後授業内容に取り入れていくべきと考える。

結果報告書

授業科目名　情報応用演習
評価実施日　平成31年2月8日
担当教員名　曽根　直人　　回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2	3					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2					4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	1				4.2
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2	3					4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3					4.4
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	3					4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1				4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	4					4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	3					4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1				4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	2				1	4.5



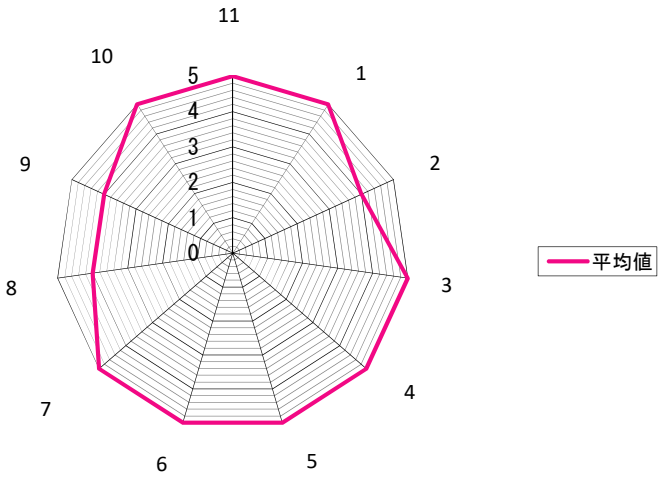
教員のコメント

ICTの分野では、日々新しい機器やサービスが開発されている。授業では、最新の機器、サービスを紹介しながら、どのように授業で利用すべきか考えており、そこが評価された。
新しい教材をどうやって利用するかを受講者が共同して考えることが評価させており、今後も継続して行いたい。

結果報告書

授業科目名　光工学研究
評価実施日　平成31年1月17日
担当教員名　宮下　晃一　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1					4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。		1					4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



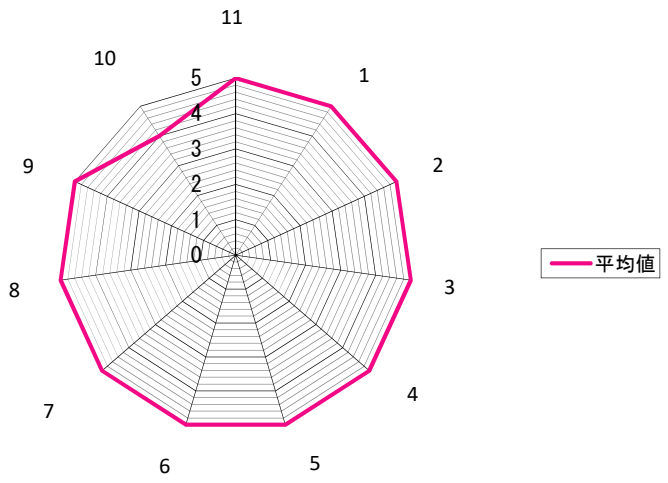
教員のコメント

受講生が一人であったことも有り，受講生のニーズに合わせた授業展開ができたことが，高評価の理由であると思います。

結果報告書

授業科目名　衣生活学演習
評価実施日　平成31年2月4日
担当教員名　福井　典代　　回答者数　1　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	1						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1					4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	1						5.0



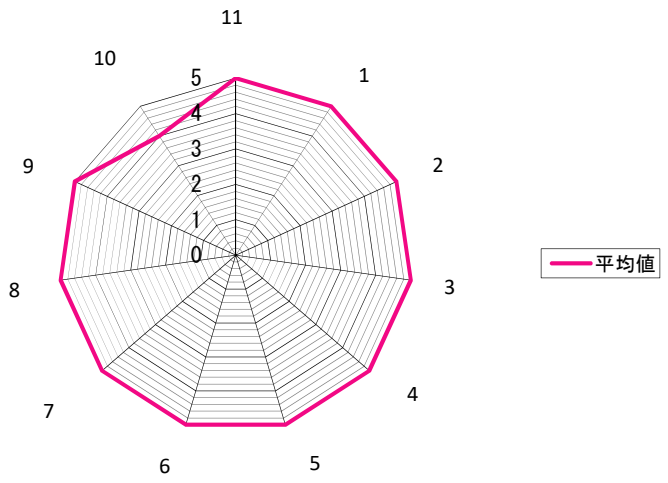
教員のコメント

この授業では，今までの衣生活に関する知識や技能の理解度から，受講者本人の希望に合わせた授業内容としている。本年度は，衣服の伝統文化に関連した内容として浴衣を製作した。この授業でよかったと思われる点として，「今まで製作したことがなかった和服をつくることができた。」と記述されていることから，家庭科の教員として習得すべき内容を製作を通して理解できた。

結果報告書

授業科目名　家庭科教育学演習
評価実施日　平成31年2月7日
担当教員名　速水　多佳子　　回答者数　2　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2					4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2						5.0



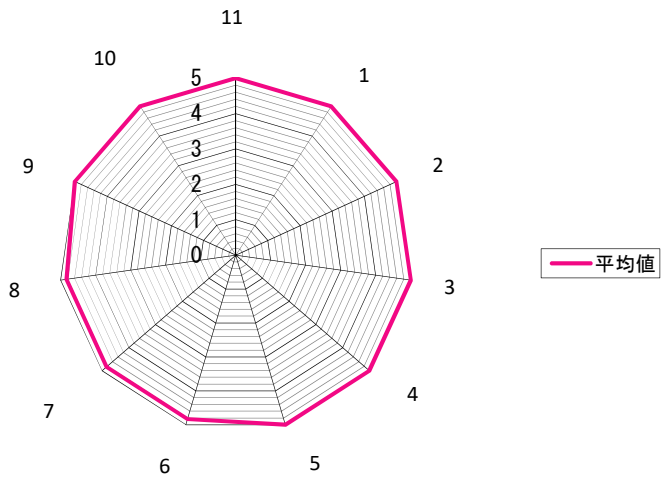
教員のコメント

本年度の受講者は、家庭コースのストレート院生2名であった。大学院修了後は中学校教員、高等学校教員となることを目指している学生であり、学校現場で生かせるように本人の希望も取り入れた実践的な授業内容にした。前半の授業は、現在の家庭科教育に関する課題について取り上げ、後半は家庭科が学習方法として重視している実践的・体験的な学習活動について、実際に学校現場で活用できる教材を用いて、授業での配慮点などについてを体験しながら考察した。受講者は積極的に参加して意欲的に取り組むことができていた。
授業に対する総合評価は5.0であり、授業者のニーズに合った授業展開ができたと思われる。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力特論Ⅱ
評価実施日　平成31年2月25日
担当教員名　小澤　大成,近森　憲助　　回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



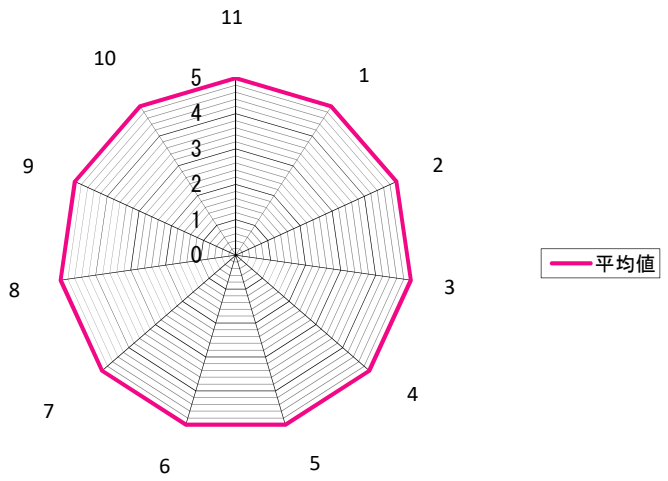
教員のコメント

授業研究を開発途上国の文脈に即して体験的に学ぶことを通じて、途上国での授業改善にとって必要な手法を理解することが目的の講義である。総合評価55.0と高評価であった。説明，授業の進む速さ,資料への評価がやや低く，今年度では理解を確認しながら説明を補足する等の改善を予定している。

結果報告書

授業科目名　国際理解教育特論Ⅱ
評価実施日　平成31年2月15日
担当教員名　小澤　大成,近森　憲助　　回答者数　3　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	3						5.0



教員のコメント

総合評価5.0と高い評価であった。引き続き学生の意見を取り入れながら授業を進めていきたい。